消 防 年 報

令和５年版

The Best Paper City

感謝、そして未来へ

― 四国中央市発足20周年 ―

四国中央市消防本部

令和６年度刊行

はしがき

この年報は、令和５年度中の本市の諸資料を集録して現勢を明らかにし、今後の消防行政の合理的な運営資料とするとともに消防事情を紹介するため編集しました。

この年賦表の統計は、令和５年１月１日から令和５年12月31日で作成しましたが、これによらないものについては、当該表に記載する月日現在により作成したものであります。

令和６年４月

四国中央市消防本部

目　　次

総　務　編

位置及び地勢 ---- 1
消防の沿革 ---- 2～15
事務分掌 ---- 16～18
歴代代表理事・消防長・消防署長 ---- 19～20
消防庁舎の位置及び規模 ---- 21
防災センターの概要 ---- 22
予算概況 ---- 23
消防本部組織図 ---- 24
職員配置状況・勤続年数・年齢 ---- 25
職員研修状況 ---- 26

予　防　編

消防設備を必要とする防火対象物 ---- 27
消防同意用途別・月別事務処理状況 ---- 28
消防同意建築別・月別処理状況 ---- 29
危険物施設数 ---- 30
危険物関係事務処理状況 ---- 31
消防法及び火災予防条例に基づく各種届出状況 ---- 32
危険物手数料徴収状況 ---- 33

警　防　編

消防車両等配備状況 ---- 34～35
消防機械器具配備状況 ---- 36
消防通信系統図 ---- 37
無線通信施設状況 ---- 38～42
気象状況 ---- 43
月別平均気温・降水量・風速・実効湿度 ---- 44
警報・注意報・情報の発表状況 ---- 45

火　　災

火災概況・出火件数 ---- 46～47
焼損程度・出火原因 ---- 48～49
死傷者・通報状況・初期消火の状況・今後の課題 ---- 50
火災統計 ---- 51～60

救　　急

救急業務の概況・活動状況 ---- 61～64
救急統計 ---- 65～74

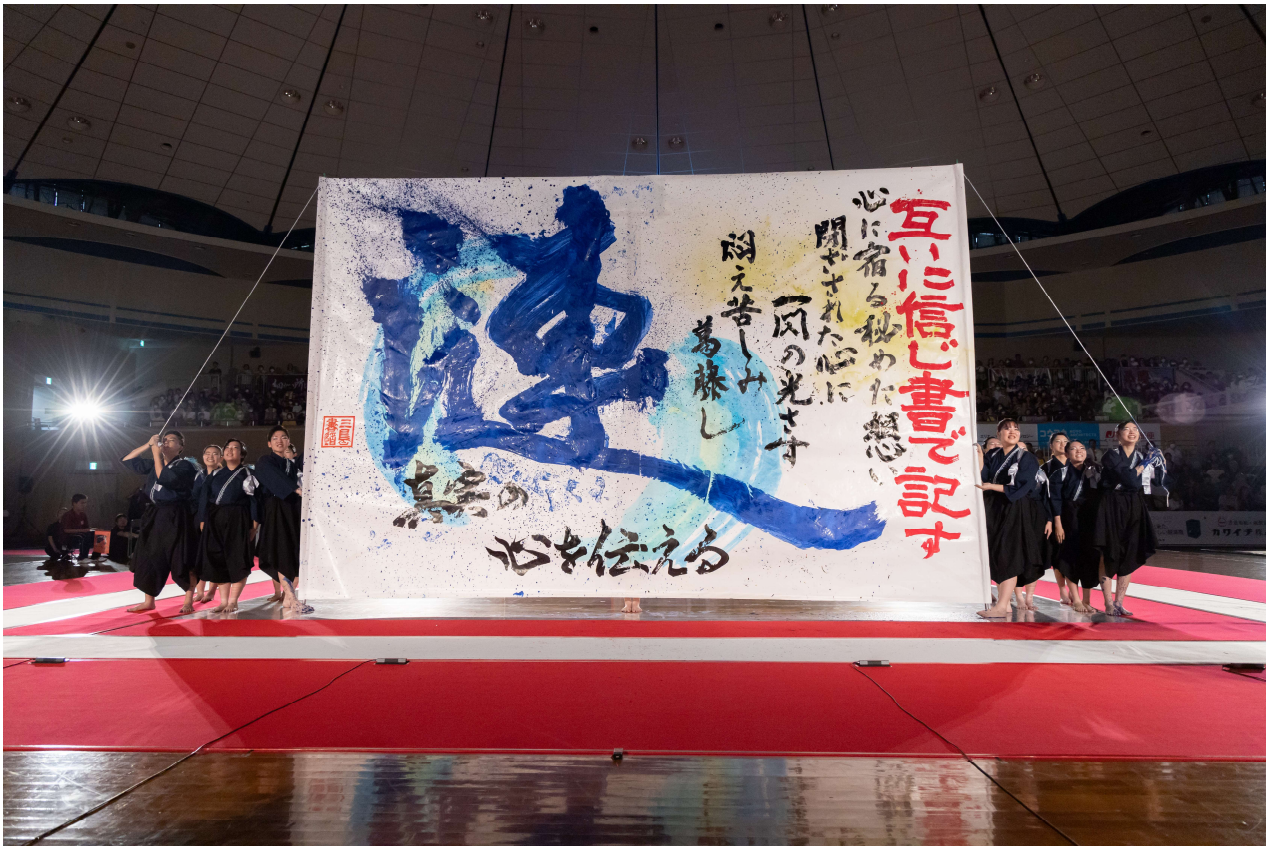
救　　助

救助業務の概況・活動状況 ---- 75～77
救助統計 ---- 78～81

消 防 団 編

消防団機構図 ---- 82
歴代消防団長 ---- 83
消防団の人員装備 ---- 84

総　務　編



第 17 回書道パフォーマンス甲子園

愛媛県立三島高等学校　作

【作品紹介】

誰もが抱く互いへの遠慮。凍てついた海のような本心は、本気の言葉で動き始め、いつしか嘘偽りのない想いが漣のように大海に広がる。心に秘めた想いが徐々に波及する様子を微細な動きで表現しました。

四国中央市の位置及び地勢

当市は愛媛県の東端部に位置し、東は香川県に面し、南東は徳島県、更に南は四国山地を境に高知県と４県が接する地域となります。県都松山市と高松市へは約 80 ㎞、高知市までは約 60 ㎞、徳島市までは約 100 ㎞、大阪市へ約 300 ㎞、東京都まで約 800 ㎞の距離にあります。

地形は、東西に約 25 ㎞の海岸線が広がり、その海岸線に沿って東部には全国屈指の「製紙・紙加工業」の工業地帯を擁し、その南に比較的幅の狭い市街地を形成しています。その海岸線西部には、美しい自然海岸が広がりその南には広大な農地が広がっています。

さらに南には急峻な法皇山脈から四国山地へと続く山間部を擁し、この豊かな自然により水という恵みを与えられ、産業や生活が支えられています。

また、当市は高速道路網の整備により、三島川之江・土居・新宮の３つのインターチェンジと２つのジャンクションを持ち、四国の「エックスハイウェイ」の中心地となっており、４県の県庁所在地のいずれにも、ほぼ１時間で結ばれるという好条件にあります。

海路では四国最大規模の国際貿易港であると共に、エックスポート四国ロジサイトのクロスポイントに位置し、この成長市場を日帰りでカバーすることができ、また四国屈指の多目的国際ターミナルに立地しており、海上貨物を取り扱うにも絶好のロケーションにあります。

海路では海外と直結し、陸路ではエックスハイウェイの効果を最大限に活用できるものです。

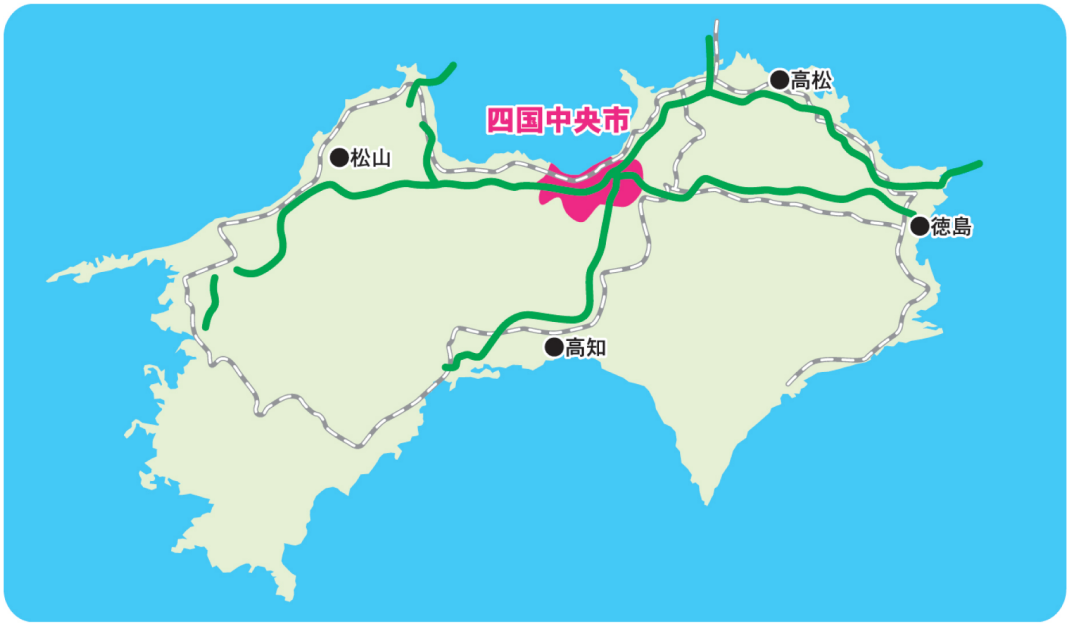
令和６年３月 31 日　現在

人　口　81,700 人

世帯数　38,790 世帯

位　置　北緯 33° 58′ 44″　　東経 133° 32′ 59″

面　積　421.24ｋ㎡



消 防 の 沿 革

昭和３６年　５月　１日　川之江市消防署設置
昭和３８年１１月　１日　伊予三島市消防署設置
昭和４８年　９月　１日　伊予三島市、川之江市を中核とする２市１町１村
（伊予三島市、川之江市、土居町、新宮村）で組合消防を設立する。
職員定数 83 人、初代消防長に川崎喜三郎が就任（川之江市長兼務）
初代消防署長に曽我部孜（三島署長）石川敏男（川之江署長）が就任
救急自動車１台、愛媛県農業共済連合会より寄贈される。
９月　５日　新宮分遣所建設用地購入（374.48 ㎡）
１０月　８日　土居出張所建設用地購入
１１月２２日　消防本部、消防署建設用地購入（2,856 ㎡）
昭和４９年　１月　１日　消防職員 20 人採用
２月　５日　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、土居出張所へ配備
３月２６日　消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）１台購入、土居出張所へ配備
３月３０日　小型動力ポンプ付積載車１台購入、新宮分遣所へ配備
４月　１日　土居出張所業務開始
庁舎：ＲＣ平屋建（235 ㎡）
消防職員５人採用
５月　７日　新宮分遣所業務開始
庁舎：ＲＣ平屋建（119 ㎡）
９月２０日　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、本署へ配備
１０月２２日　消防指令車１台購入、消防本部へ配備
１１月　１日　第２代目消防長に加地正雄が就任
１１月３０日　消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）１台購入、本署へ配備
昭和５０年　２月１５日　消防本部、本署の庁舎新築落成
庁舎：ＲＣ２階、一部３階（延 895 ㎡）、作業場（60 ㎡）
３月　１日　消防本部、署（伊予三島署、川之江署合併）業務開始
第２代目消防署長に曽我部孜が就任
消防の名称を宇摩地区広域市町村圏組合消防本部、消防署に変更
消防ポンプ自動車３台、救急自動車３台購入、配備
消防指令装置（301 型）1 台購入、配備
大段山に無線中継基地を建設
宇摩管内全域の緊急通報「119 番」を統括
３月　７日　梯子付消防ポンプ自動車（24m級）１台購入、本署へ配備
化学消防ポンプ自動車（Ⅲ型）１台購入、本署へ配備
３月２２日　救急自動車（２Ｂ型）1 台、日本損害保険協会より寄贈される。
４月　１日　組合の代表である「組合長」制を市町村長で構成する「理事会」方式に改正する。
第３代目消防署長に青木役雄が就任
職員定数 85 人、消防職員 19 人採用
６月　２日　消防職員１人採用
６月　３日　積載車１台購入、配備

昭和５１年　３月２２日　水槽付消防ポンプ自動車１台、日本損害保険協会より寄贈される。
４月　１日　消防職員７人採用、実員 85 人
（本部 12 人、署 50 人、土居 16 人、新宮 7 人）
８月２５日　消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）1 台購入、配備
昭和５２年　１月　１日　消防職員２人採用、実員 85 人
３月３０日　屋内訓練場（鉄骨 171 ㎡）建設
４月　１日　第４代目消防署長に曽我部孜が就任
職員定数 89 人、消防職員８人採用
（本部 14 人、署 50 人、土居 18 人、新宮 7 人）
４月１９日　予防広報車１台購入、配備
１０月　１日　消防職員２人採用、実員 89 人
昭和５３年　１月　１日　消防職員１人採用、実員 89 人
４月　１日　消防職員５人採用、実員 89 人
（本部 14 人、署 50 人、土居 18 人、新宮 7 人）
５月１７日　広報査察車 1 台購入、配備
７月３１日　救急自動車（２Ｂ型）1 台、宇摩医師会より寄贈される。
１０月　１日　消防職員 1 人採用、実員 89 人
１２月　３日　第１回防火少年剣道大会開催
昭和５４年　１月　１日　消防職員 1 人採用、実員 89 人
１月２３日　土居出張所訓練用地購入（412 ㎡）
４月　１日　職員定数 93 人、新規消防職員９人採用、実員 93 人
（本部 14 人、署 50 人、土居 20 人、新宮 9 人）
４月　５日　連絡車１台購入、配備
５月　４日　連絡車１台購入、配備
９月２６日　救急自動車（２Ｂ型）１台、日本消防協会より寄贈される。
１２月　２日　第２回防火少年剣道大会開催
１２月１４日　東予広域消防相互応援協定締結
昭和５５年　１月１９日　別子山村の組合加入が議決され２市１町２村の構成になる。
職員定数 98 人
３月２５日　嶺南分遣所仮庁舎完成
積載車１台購入、配備
４月　１日　嶺南分遣所業務開始
消防職員５人採用、実員 98 人
（本部 14 人、本署 48 人、土居 20 人、新宮 9 人、嶺南 7 人）
１０月　１日　消防職員 1 人採用、実員 98 人
１０月２６日　第１回消防まつり開催
１１月３０日　第３回防火少年剣道大会開催
昭和５６年　４月　１日　第５代目消防署長に合田五郎が就任
１０月　３日　第２回消防まつり開催
昭和５７年　２月２１日　第４回防火少年剣道大会開催
３月２６日　嶺南分遣所庁舎用地購入（400 ㎡）
８月１０日　管内初の防火少年消防クラブ「金生少年消防クラブ」が結成される。

１０月　３日　第３回消防まつり開催
１１月２８日　第５回防火少年剣道大会開催
昭和５８年　３月　７日　嶺南分遣所新庁舎にて業務開始
庁舎：ＲＣ平屋建（127.06 ㎡）
４月　１日　第６代目消防署長に福田幸夫が就任
４月２６日　全国消防長会四国支部総会が伊予三島市で開催される。
９月　３日　管内初の婦人防火クラブ「上分町金沢ママさん消防クラブ」が結成される。
１０月　２日　第４回消防まつり開催
１１月　１日　救急自動車（２Ｂ型）１台、日本自動車工業会より寄贈される。
１１月２７日　第６回防火少年剣道大会開催
昭和５９年　３月１３日　愛媛県広域消防訓練を伊予三島市金砂町平野地区で実施
３月１７日　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、本署へ配備
４月　１日　第３代目消防長に高津光宏が就任
職員定数 106 人、実員 98 人
８月２３日　電源照明車、日本消防協会より伊予三島消防団へ寄贈
９月２３日　第５回消防まつり開催
９月２８日　婦人防火クラブ「妻鳥町中下ママさん消防クラブ」が結成される。
１０月２４日　消防ポンプ自動車（ＣＤ－１型）１台購入、本署へ配備
１１月１１日　婦人防火クラブ「別子山村婦人防火クラブ」が結成される。
１１月２７日　第７回防火少年剣道大会開催
昭和６０年２月２日～５日　愛媛・香川県境林野火災
３月　４日　消防職員８人採用、実員 106 人
３月２７日　四国縦貫高速道「松山自動車道」川之江三島ＩＣ～土居ＩＣ間 11 ㎞開通
４月　１日　職員定数 106 人
（本部 13 人、本署 55 人、土居 20 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
香川県（三豊消防）徳島県（三好消防）との間に、広域消防相互応援協定が締結される。
１０月１９日　宇摩地区婦人防火クラブ連絡協議会が結成される。
１１月　８日　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、本署へ配備
１２月　１日　第８回防火少年剣道大会開催
１２月２８日　消防本部庁舎増築：ＲＣ平屋建（93.077 ㎡）
昭和６１年　１月３１日　救急自動車（２Ｂ型）１台日本自動車工業会より寄贈される。
４月　１日　消防職員１人採用、実員 106 人
高知県（嶺北消防）との間に広域消防相互応援協定が締結される。
８月２４日　第３７回全国官公庁軟式野球大会（東京都）出場
９月１７日　管内初の幼年消防クラブ結成される。
「川之江市　緑ヶ丘幼稚園」・「伊予三島市　愛和幼稚園」
９月２３日　第７回消防まつり開催
１１月３０日　第９回防火少年剣道大会開催
１２月１５日　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台購入、土居出張所へ配備
昭和６２年　４月　１日　第４代目消防長に南　幸寛が就任
５月２７日　幼年消防クラブが結成される「川之江市　金生幼稚園」

６月２５日　消防指令車１台購入、配備
８月２６日　小型動力ポンプ付積載車１台購入、配備
９月　１日　消防職員１人採用
９月２０日　第８回消防まつり開催
１２月　１日　高速自動車道に関する覚書を締結（三豊、宇摩消防本部）
１２月１６日　四国縦貫高速道「高松自動車道」川之江～善通寺間 38㎞ 開通
１２月２０日　第１０回防火少年剣道大会開催
昭和６３年　４月　１日　職員定数 112 人、消防職員 6 人採用、実員 112 人
（本部 13 人、本署 58 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
土居出張所を土居分署に名称変更
本署に専任救助隊を編成する。
４月３０日　広報車１台購入、配備
６月１８日　搬送車１台購入、土居分署へ配備
１０月３０日　第９回消防まつり開催
１２月　４日　第１１回防火少年剣道大会開催
平成　元年　３月３０日　救助工作車１台購入、本署へ配備
４月　１日　消防職員１人採用、実員 112 人
６月　２日　査察車１台購入、消防本部へ配備
９月２３日　第１０回消防まつり開催
９月２５日　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、嶺南分遣所へ配備
１１月１９日　第１２回防火少年剣道大会開催
１１月３０日　消防署車庫新築（46 ㎡）
平成　２年　３月３１日　消防職員１人退職
４月　１日　消防職員１人採用、実員 112 人
７月２０日　救急自動車１台購入、本署へ配備
７月２４日　愛媛県総合防災訓練（土居町）
８月　１日　水槽付ポンプ自動車１台、日本損害保険協会より寄贈され本署へ配備
９月２３日　第１１回消防まつり開催
１０月３０日　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台購入、本署へ配備
１１月１１日　第１３回防火少年剣道大会開催
１１月３０日　大永山トンネル、災害活動に関する覚書
（別子山村、新居浜、宇摩消防本部）
１２月　１日　大永山トンネル開通
平成　３年　２月１３日　松山自動車道に関する覚書を締結（新居浜、西条、宇摩消防本部）
３月２５日　松山自動車道合同消防訓練（新居浜、西条、宇摩消防本部）
３月２８日　「松山自動車道」土居ＩＣ～西条ＩＣ間 22.2ｋｍ供用開始
６月　６日　搬送車１台購入、本署へ配備
７月　２日　原因調査車１台購入、消防本部へ配備
９月２２日　第１２回消防まつり開催
１２月　１日　第１４回防火少年剣道大会開催
１２月２５日　高知自動車道に関する覚書を締結（嶺北、三豊、宇摩消防本部）
平成　４年　１月２１日　高知自動車道合同消防訓練（嶺北、三豊、宇摩消防本部）

	１月３０日	「高知自動車道」川之江ＪＣＴ～大豊ＩＣ間 29.4ｋｍ供用開始
	４月　１日	第５代目消防長に篠原修三が就任
	６月１７日	広報車１台購入、土居分署へ配備
	９月　１日	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台購入、本署へ配備
	９月２０日	第１３回消防まつり開催
	１１月　８日	第１５回防火少年剣道大会開催
	１２月２３日	宇摩消防無線呉石中継所完成、運用開始
平成　５年	２月１３日	土居町天満、林野火災（焼損面積 145.2ha）
	９月１９日	第１４回消防まつり開催
	１１月　７日	第１６回防火少年剣道大会開催
	１１月３０日	消防訓練場用地買収（252 ㎡）
	１２月　２日	消防庁舎高圧受発電設備工事完成
	１２月　８日	消防庁舎増築（168.82 ㎡）
平成　６年	３月　１日	消防緊急通信指令装置Ⅱ型運用開始
	３月２３日	消防訓練場完成
	４月　１日	第７代目消防署長に青木一美が就任 職員定数 120 人、3 人増員、実員 115 人 （本部 12 人、本署 61 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
	９月１５日	第１５回消防まつり開催
	９月２１日	救急自動車（２Ｂ型）及び小型動力ポンプ付積載車購入、土居分署及び嶺南分遣所へそれぞれ配備
	１０月３１日	救急自動車（２Ｂ型）１台、愛媛県共済農業共同組合連合会より寄贈される新宮分遣所へ配備
	１１月１３日	第１７回防火少年剣道大会開催
平成　７年	１月１７日	阪神・淡路大震災発生
	１月１９日	阪神・淡路大震災救助応援出動
	４月　１日	第６代目消防長に矢野陽炎が就任 職員定数 120 人、3 人増員、実員 120 人 （本部 15 人、本署 64 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
	７月　６日	幼年消防クラブが結成される。「伊予三島市　三島幼稚園」
	１０月　８日	第１６回消防まつり開催雨天のため中止
	１０月２０日	救急自動車（２Ｂ型）購入、本署に配備
	１１月１３日	水槽付消防ポンプ自動車購入、土居分署へ配備
	１１月２２日	救急救命士誕生（１人）
	１２月１０日	第１８回防火少年剣道大会開催
平成　８年	４月　１日	第８代目消防署長に加地勝が就任 愛媛県防災航空隊へ１人派遣（平成 8 年 4 月～平成 10 年 3 月）
	１０月　１日	消防職員委員会設置
	１０月　６日	第１７回消防まつり開催
	１１月２４日	第１９回防火少年剣道大会開催
	１１月２５日	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入新宮分遣所へ配備
	１２月　９日	救急救命士資格取得（１人）

平成　９年　１月２７日　　高規格救急自動車購入　本署へ配備
　　４月　１日　　第７代目消防長に森川義彦が就任
　　職員定数 120 人　実員 119 人
　　（本部 14 人、本署 64 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
　　高規格急自動車運用開始
　　４月２７日　　消防職員１人退職
　　５月１３日　　救急救命士資格取得（１人）
　　９月　１日　　ダイヤルイン運用開始
　　１１月２３日　　第２０回防火少年剣道大会
　　１１月２８日　　救急救命士資格取得（１人）
平成１０年　２月２７日　　はしご付消防ポンプ自動車 30m級（伸梯長 35m）購入、本署へ配備
　　３月　７日　　自治体消防制度５０周年記念式典（東京）
　　３月３１日　　消防職員２人退職
　　４月　１日　　職員定数 132 人、13 人増員、実員 129 人
　　（本部 26 人、本署 62 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
　　１１月　５日　　川之江防災センター・消防分署庁舎落成　ＲＣ２階建（740.88 ㎡）
　　伊予三島防災センター・消防分署庁舎落成　ＲＣ２階建（702.93 ㎡）
　　１１月２２日　　第２１回防火少年剣道大会開催
　　１１月２５日　　救急救命士資格取得（１人）
平成１１年　３月１０日　　搬送車２台購入、伊予三島分署、川之江分署へ配備
　　広報車２台購入、伊予三島分署、川之江分署へ配備
　　３月１２日　　消防ポンプ自動車（ＣＤ－１型）１台購入、川之江分署へ配備
　　３月１９日　　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、伊予三島分署へ配備
　　４月　１日　　職員定数 132 人、3 人増員、実員 132 人
　　（本部 16 人、本署 45 人、伊予三島 15 人、川之江 15 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
　　伊予三島分署（防災センター）業務開始
　　川之江分署　（防災センター）業務開始
　　１０月　７日　　消防職員１人退職
　　１１月１２日　　消防職員１人退職
　　１１月２６日　　救急救命士資格取得（１人）
　　１２月　５日　　第２２回防火少年剣道大会開催
平成１２年　３月　１日　　高速徳島自動車道に関する覚書を締結（三好、宇摩消防本部）
　　３月　７日　　徳島自動車道総合防災訓練（三好、宇摩消防本部）
　　３月１１日　　「徳島自動車道」開通　川之江東ＪＣＴ～徳島ＩＣ間 95.3ｋｍ
　　４月　１日　　第８代目消防長に松本公夫が就任
　　職員定数１42 人、実員 130 人
　　（本部 15 人、本署 44 人、伊予三島 15 人、川之江 15 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
　　愛媛県防災航空隊へ１人派遣（平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月）
　　９月　１日　　愛媛県総合防災訓練（伊予三島市）
　　１１月１３日　　救急救命士資格取得（１人）
　　１１月１９日　　第２３回防火少年剣道大会開催
　　１２月２７日　　消防職員１人退職

平成１３年　４月　１日　　職員定数 142 人、10 人増員、実員 139 人
（本部 15 人、本署 45 人、伊予三島 19 人、川之江 19 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
新宮分遣所・嶺南分遣所を新宮分署・嶺南分署に名称変更
１２月　２日　　第２４回防火少年剣道大会開催
１２月　７日　　救急救命士資格取得（１人）
１２月１１日　　消防ポンプ自動車（ＣＤ－１）１台購入、嶺南分署へ配備
平成１４年　１月１８日　　高規格救急自動車購入、土居分署へ配備
３月３１日　　消防職員１人退職
４月　１日　　職員定数 142 人、4 人増員、実員 142 人
（本部 15 人、本署 45 人、伊予三島 19 人、川之江 19 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
１１月２０日　　救急救命士資格取得（１人）
１２月　１日　　第２５回防火少年剣道大会開催
１２月１０日　　消防職員１人退職
平成１５年　２月１４日　　化学消防ポンプ自動車Ⅲ型購入、本署へ配備
３月３１日　　別子山村、宇摩地区広域市町村圏組合離脱
４月　１日　　組合の市町村で構成する「理事会」を「組合長」制とする。
４月　１日　　新居浜市別子山地区の消防事務一部受託（附属協定書覚書を締結）
４月　１日　　職員定数 142 人、実員 141 人
（本部 13 人、本署 47 人、伊予三島 20 人、川之江 20 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
９月２２日　　新宮分署庁舎増築（7.88 ㎡）延面積 126.88 ㎡
９月３０日　　消防職員１人退職
１１月１９日　　消防ポンプ自動車（ＣＤ－１型）２台購入、本署・土居分署へ配備
１２月１１日　　救急救命士資格取得（１人）
１２月１４日　　第２６回防火少年剣道大会開催
１２月３１日　　消防職員１人退職
平成１６年　４月　１日　　市町村合併により四国中央市が誕生し、四国中央市消防本部となる。
初代四国中央市消防長に石川清美就任
初代四国中央市消防署長に加地勝就任
新規消防職員３人採用
職員定数 142 人、実員 142 人
（本部 15 人、本署 46 人、川之江 20 人、三島 20 人、土居 23 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）
愛媛県防災航空隊へ１人派遣（平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月）
４月１９日　　消防職員１人退職
８月　４日　　査察車１台購入、消防本部に配備
１１月２４日　　救急救命士資格取得１人
１２月１２日　　第２７回防火少年剣道大会開催
平成１７年　１月３０日　　第１回四国中央市消防出初式開催
２月　８日　　救急自動車（２Ｂ型）１台購入、嶺南分署に配備
３月３１日　　消防職員２人退職
４月　１日　　第２代目消防署長に加地秀俊が就任
新規消防職員３人採用
職員定数 142 人、実員 141 人

（本部 16 人、本署 51 人、川之江 16 人、三島 16 人、土居 24 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）

７月　１日　　人事異動にて本庁危機管理対策室へ１人異動

新規消防職員 1 人採用

職員定数 142 人、実員 141 人

８月１２日　第２３期金生少年消防クラブ結成式

１１月１７日　救急救命士資格取得１人

１２月　４日　第２８回防火少年剣道大会

平成１８年　１月２２日　第２回四国中央市消防出初式開催

４月　１日　第２代目消防長に越智義茂就任

庁内公募性による人事異動により本庁事務部局から消防本部へ 2 人異動

庁内公募性による人事異動により消防本部から本庁事務部局へ 2 人異動

職員定数 142 人、実員 141 人

（本部 16 人、本署 51 人、川之江 16 人、三島 16 人、土居 24 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）

愛媛県消防学校へ教官 1 人派遣（平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月）

７月１３日　第２４期金生少年消防クラブ結成式

１１月２０日　救急自動車（高規格対応型救急自動車）1 台購入、新宮分署へ配備

１２月　３日　第２９回防火少年剣道大会開催

平成１９年　１月２８日　第３回四国中央市消防出初式開催

３月３１日　消防職員 1 人退職

４月　１日　新規消防職員１人採用（救急救命士資格取得者）

庁内公募制の職員 1 人本庁事務部局へ異動

職員定数 142 人、実員 140 人

（本部 15 人、本署 51 人、川之江 16 人、三島 16 人、土居 24 人、新宮 9 人、嶺南 9 人）

５月　１日　救急救命士資格取得１人

７月　６日　第２５期金生少年消防クラブ結成式

１１月１６日　災害対応特殊消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）1 台購入

三島分署へ配備

１１月１９日　高規格救急自動車(災害対応特殊救急自動車）１台購入、川之江分署へ配備

１２月　２日　第３０回防火少年剣道大会開催

平成２０年　１月２７日　第４回四国中央市消防出初式開催

３月３１日　消防職員２人退職

４月　１日　第３代目消防長に石川道俊が就任

新規消防職員に女性消防吏員 1 人採用（救急救命士資格取得者）

職員定数 142 人、実員 140 人

（本部 17 人、本署 54 人、川之江 15 人、三島 15 人、土居 23 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）

４月２１日　救急救命士資格取得１人

７月　４日　第２６期金生少年消防クラブ結成式

９月　９日　高規格救急自動車１台購入、三島分署へ配備（アステラス製薬から寄贈）

平成２１年　１月２５日　第５回四国中央市消防出初式開催

３月３１日　消防職員３人退職

４月　１日　第４代目消防長に星川和昭が就任

機構改革により本庁危機管理対策室を消防本部へ移管する。

機構改革により消防本部の総務課と警防課を統合、総務警防課と予防課の２課制とすると共に新宮・嶺南分署を分遣所とし、川之江、三島分署の所管とする組織変更を実施、1 本部 1 署 3 分署 2 分遣所体制とする。
職員定数 142 人、実員 141 人（吏員 138 人）
庁内公募性による人事異動により本庁事務部局から消防本部へ１人異動
（本部 20 人、本署 53 人、川之江 15 人、三島 15 人、土居 23 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）
愛媛県防災航空隊へ１人派遣（平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月）

４月２１日　救急救命士資格取得１人
４月２４日　愛媛県消防協会東予支部総会四国中央市で開催
７月　３日　第２７期金生少年消防クラブ結成式
１１月１３日　高規格救急自動車１台購入、本署へ配備
平成２２年　１月２４日　第６回四国中央市消防出初式開催
３月１０日　通信指令装置リフレッシュオーバーホールによる更新
３月３１日　消防職員６人退職
４月　１日　第３代目消防署長に林　章弘が就任
機構改革により消防本部の総務警防課と予防課を統合、安全管理課の１課制とする。
新規消防職員１人採用（救急救命士資格取得者）
職員定数 142 人、実員 138 人(吏員 133 人)
（本部 17 人、本署 52 人、川之江 15 人、三島 15 人、土居 23 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）
７月　２日　第２８期金生少年消防クラブ結成式
８月　４日　30m級はしご付き消防自動車のオーバーホール（分解整備）完了
１１月６・７日　第４回四国中央市防災訓練開催（寒川豊岡ふれあいビーチ外）
１２月　６日　救助工作車Ⅱ型及び救助資機材を更新、本署へ配備（モリタ製）
１２月　４日　全国瞬時警報システム整備完了する（Ｊ－アラート）
平成２３年　１月２４日　第７回四国中央市消防出初式開催
３月　４日　消防署土居分署が四国中央市土居庁舎へ移転する。
３月１１日　東北地方太平洋沖地震発生
３月１４日～２１日　緊急消防援助隊（消火隊・救急隊・後方支援隊）として被災地（岩手県釜石市）に派遣（３車両９人）
３月３１日　消防職員７人退職
４月　１日　第５代目消防長に林　章弘が就任
第４代目消防署長に吉岡洋一が就任
機構改革により消防本部安全管理課から、安全・危機管理課とする。
新規消防職員３人採用（救急救命士資格取得者）
庁内公募性による人事異動により本庁事務部局から消防本部へ１人異動
再任用消防吏員１人採用
職員定数 142 人、実員 137 人(吏員 129 人)
（本部 19 人、本署 49 人、川之江 17 人、三島 17 人、土居 23 人、新宮 6 人、嶺南 6 人）
５月１３日　救急救命士資格取得１人
７月　１日　第２９期金生少年消防クラブ結成式
８月１９日　広報車２台（軽四ワゴン）購入、本部へ配備
１１月２３日　第５回四国中央市防災訓練開催（三島小学校 他 27 ヶ所）

平成２４年　１月２２日　第８回四国中央市消防出初式開催
２月２１日　高規格救急自動車１台購入、土居分署へ配備（ＪＡ共済愛媛県本部から寄贈）
３月３１日　消防職員９人退職
４月　１日　第６代目消防長に青木　基が就任
第５代目消防署長に鈴木隆久が就任
新規消防職員３人採用（救急救命士資格取得者）
再任用消防吏員２人採用
職員定数 142 人、実員 137 人(吏員 129 人)
（本部 19 人、本署 49 人、川之江 17 人、三島 17 人、土居 23 人、新宮 6 人、嶺南 6 人）
６月２２日　第３０期金生少年消防クラブ結成式
１１月２３日　第６回四国中央市防災訓練開催（金生第二小学校 他 27 ヶ所）
平成２５年　１月２２日　第９回四国中央市消防出初式開催
２月　１日　消防ポンプ自動車(ＣＤ－Ⅰ型ＣＡＦＳ付)１台購入、土居分署に配備
３月３１日　消防職員６人退職
４月　１日　第６代目消防署長に進藤正三が就任
機構改革により消防本部安全・危機管理課の１課制から、安全・危機管理課と予防課の２課体制とする。
新規消防職員５人採用（うち３人救急救命士資格取得者）
再任用消防吏員１人採用
職員定数 142 人、実員 135 人(吏員 127 人)
（本部 19 人、本署 47 人、川之江 17 人、三島 17 人、土居 23 人、新宮 6 人、嶺南 6 人）
愛媛県防災航空隊へ１人派遣（平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月）
５月１３日　救急救命士資格取得１人
６月２８日　第３１期金生少年消防クラブ結成式
９月　８日　第７回四国中央市防災訓練（台風による災害対応のため中止）
平成２６年　１月２６日　第１０回四国中央市消防出初式開催
２月２４日　災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（ＣＡＦＳ付）１台購入、本署に配備
３月２８日　新宮分遣所竣工　ＲＣ平屋建（387.30 ㎡）・付属棟（46.20 ㎡）
３月３１日　消防職員４人退職
４月　１日　第７代目消防長に野村泰一が就任
新規消防職員４人（うち１人女性吏員）採用（うち２人救急救命士資格取得者）
再任用消防吏員２人採用
職員定数 142 人、実員 136 人(吏員 127 人)
（本部 21 人、本署 46 人、川之江 17 人、三島 17 人、土居 23 人、新宮 6 人、嶺南 6 人）
４月１９日　消防職員１人退職
５月２８日　救急救命士資格取得１人
７月　４日　第３２期金生少年消防クラブ結成式
８月２１日～３０日　平成２６年８月豪雨により、緊急消防援助隊（後方支援隊）として被災地（広島市安佐南区）に派遣（１車両延べ６人）
９月　７日　第８回四国中央市防災訓練
平成２７年　１月２５日　第１１回四国中央市消防出初式開催
２月２７日　指揮車１台購入、本署に配備

３月　２日　　火災調査車１台購入、本部に配備

３月１３日　　中曽根町５００番地に、消防防災センターが完成する。
本館棟：ＲＣ造、地上５階建免震構造（5,963.92 ㎡）、付属棟：ＲＣ造地上３階建（693.59 ㎡）、主訓練塔：ＲＣ造地上５階建（199.20 ㎡）

３月３１日　　消防職員６人退職

４月　１日　　機構改革により、消防本部・本署・三島分署・消防団本部・建設部を統廃合した消防防災センターの運用を開始する。
機構改革により、本署消防課を消防一課と消防二課の２課制とすると共に新宮・嶺南分遣所を川之江・三島分署の所管から本署の所管とする組織変更を実施、川之江分署・土居分署を東分署・西分署に名称変更し、1 本部 1 署 2 分署 2 分遣所体制とする。
高機能指令センター及び消防救急デジタル無線の運用を開始する。
新規消防職員４人採用（うち３人救急救命士資格取得者）
再任用消防職員３人採用
職員定数 142 人、実員 129 人（吏員 122 人）
（本部 18 人、本署 57 人、東 17 人、西 23 人、新宮 6 人、嶺南 8 人）

４月３０日　　救急救命士資格取得１人

６月２３日　　第３３期金生少年消防クラブ結成式

７月　４日　　第４４回消防救助技術四国地区指導会署内選考会（レスキュー競技会２０１５）開催

９月　１日　　愛媛県総合防災訓練（四国中央市）及び第９回四国中央市防災訓練（じゃじゃうま広場）

１２月３１日　　消防職員１人退職

平成２８年　１月２４日　　第１２回四国中央市消防出初式開催

２月２９日　　災害対応特殊小型動力ポンプ付水槽車１台購入、本署に配備

３月１８日　　資機材搬送車１台購入、本署に配備

３月３１日　　消防職員５人退職

４月　１日　　第８代目消防長に井上　彰が就任
第７代目消防署長に山川秀生が就任
新規消防職員２人採用
再任用消防職員１人採用
職員定数 142 人、実員 126 人（吏員 119 人）
（本部 20 人、本署 52 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）

６月１８日　　第１回愛媛県消防救助技術大会署内選考会（レスキュー競技会２０１６）開催

７月　８日　　第３４期金生少年消防クラブ結成式

８月３１日　　指導救命士認定１人

９月　４日　　第１０回四国中央市防災訓練（川之江小学校）

１０月２８日　　30m級はしご付き消防自動車の２回目オーバーホール（分解整備）完了

平成２９年　１月２２日　　第１３回四国中央市消防出初式開催

３月３１日　　消防職員３人退職

４月　１日　　新規消防職員７人採用（うち３人救急救命士資格取得者）
再任用消防吏員３人採用
職員定数 142 人、実員 129 人（吏員 122 人）

（本部 21 人、本署 54 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）
愛媛県消防学校へ教官 1 人派遣（平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月）
管内初の機能別消防団員「市役所消防隊」発足

５月１１日　救急救命士資格取得１人
６月１７日　第２回愛媛県消防救助技術大会署内選考会（レスキュー競技会２０１７）開催
７月　７日　第３５期金生少年消防クラブ結成式
８月３０日　指導救命士認定１人
９月　１日　第１１回四国中央市防災訓練（土居小学校）

平成３０年　１月２１日　第１４回四国中央市消防出初式開催
３月１５日　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型ＣＡＦＳ付）１台購入、新宮分遣所に配備
３月１６日　災害対応資機材積載車１台購入、西分署に配備
３月３１日　消防職員４人退職
４月　１日　第９代目消防長に近藤英樹が就任
第８代目消防署長に岩本伸二が就任
新規消防職員４人採用
職員定数 142 人、実員 129 人（吏員 122 人）
（本部 22 人、本署 53 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）
６月２３日　第３回愛媛県消防救助技術大会署内選考会（レスキュー競技会２０１８）開催
７月　６日　第３６期金生少年消防クラブ結成式（中止）
７月８・９日　平成３０年７月豪雨により、愛媛県消防広域相互応援協定に基づき、被災地（宇和島市）へ応援出動（２隊２車両５名）
８月２８日　指導救命士認定１人
９月　２日　第１２回四国中央市防災訓練（新宮小中学校、嶺南公民館）
１２月　１日　機能別消防団員「ＯＢ消防団員」発足

平成３１年　１月２７日　第１５回四国中央市消防出初式開催
３月　８日　災害対応特殊消防ポンプ自動車１台購入、東分署に配備
３月１８日　災害対応高規格救急自動車１台購入、本署に配備
３月３１日　消防職員４人退職
４月　１日　第９代目消防署長に近藤恭司が就任
新規消防職員６人採用
再任用消防吏員１人採用
職員定数 142 人、実員 130 人（吏員 123 人）
（本部 22 人、本署 54 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人）

令和元年　５月１７日～２０日　土居町天満、林野火災（焼損面積 30ha）
６月　１日　第４回愛媛県消防救助技術大会署内選考会（レスキュー競技会２０１９）開催
６月１２日　救急救命士資格取得１人
７月　９日　第３７期金生少年消防クラブ結成式
８月２３日　指導救命士認定１人
９月　２日　第１３回四国中央市防災訓練（しこちゅ～ホール）
１１月１２日　指導救命士認定１人

令和２年　１月２６日　第１６回四国中央市消防出初式開催
３月３１日　愛媛県消防広域相互応援協定締結（平成 18 年協定廃止による）

愛媛県消防団広域相互応援協定締結
消防職員７人退職

４月　１日　機構改革により、消防本部安全・危機管理課危機管理対策係が本庁総務部防災まちづくり推進課に新設となる。
機構改革により消防本部安全・危機管理課が警防課となる。
新規消防職員６人採用
再任用消防吏員５人採用
職員定数 142 人、実員 124 人(吏員 122 人)
(本部 16 人、本署 54 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人)

４月３０日　消防職員１人退職

７月　第３８期金生少年消防クラブ結成式（新型コロナ感染症の影響により中止）

８月２４日　査察車１台購入、本部に配備

９月　６日　第１４回四国中央市防災訓練（新型コロナ感染症の影響により中止）

令和３年　１月２４日　第１７回四国中央市消防出初式（新型コロナ感染症の影響により中止）
令和３年四国中央市消防出初式に伴う表彰伝達式及び消防車両貸与式開催

２月１２日　高規格救急自動車１台購入、東分署に配備（ＪＡ共済連愛媛県本部から寄贈）

３月３１日　消防職員６人退職

４月　１日　第１０代目消防署長に石川裕次が就任
新規消防職員７人採用
再任用消防吏員３人採用
職員定数 142 人、実員 124 人(吏員 122 人)
(本部 16 人、本署 54 人、東 17 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人)
愛媛県防災航空隊へ１人派遣（令和 3 年 4 月～令和 6 年 3 月）

４月２３日　救急救命士資格取得１人

５月２０日　愛媛県消防救助技術大会署内選考会（レスキュー競技会２０２１）
(新型コロナ感染症の影響により中止)

９月　５日　第１５回四国中央市防災訓練（新型コロナ感染症の影響により中止）

９月２７日　令和３年度消防職員意見発表選考会

令和４年　１月２３日　第１８回四国中央市消防出初式（新型コロナ感染症の影響により中止）

１月２３日　令和４年四国中央市消防出初式に伴う表彰伝達式

３月２２日　高機能消防指令システム部分更新完了

３月３０日　高格救急自動車１台購入、嶺南分遣所に配備（アステラス製薬株式会社から寄贈）

３月３１日　消防職員２人退職

４月　１日　新規消防職員９人採用
職員定数 142 人、実員 129 人(吏員 128 人)
(本部 17 人、本署 54 人、東 21 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人)

４月１２日～１５日　金砂町小川山、林野火災（焼損面積 23.5ha）

７月　８日　第４０期金生少年消防クラブ結成式

８月２６日　第５０回全国消防救助技術大会（東京都）出場　基本泳法１人

８月３１日　消防職員１人退職

９月　４日　第１６回四国中央市防災訓練（新型コロナ感染症の影響により中止）

９月１４日　指導救命士認定１人

令和５年	１月２２日	第１９回四国中央市消防出初式開催（しこちゅ～ホール）
	２月２４日	災害対応ドローン１機購入、本部に配備
	２月２８日	消防職員１人退職
	３月３１日	消防職員５人退職
	４月　１日	第１０代目消防長に内田斉が就任
		第１１代目消防署長に東山和史が就任
		新規消防職員６人採用
		職員定数 142 人、実員 128 人(吏員 127 人)
		(本部 18 人、本署 52 人、東 21 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人)
	７月　７日	消防職員１人退職
	７月１１日	第４１期金生少年消防クラブ結成式
	８月２５日	第５１回全国消防救助技術大会（札幌市）出場　ロープブリッジ渡過１人
	８月２５日	指導救命士認定１人
	９月　３日	第１７回四国中央市防災訓練
	１２月１９日	査察車１台購入、本部に配備
令和６年	１月２１日	第２０回四国中央市消防出初式開催（しこちゅ～ホール）
	１月３１日	消防職員１人退職
	３月　４日	高格救急自動車１台購入、本署に配備
	３月３１日	消防職員１人退職
	４月　１日	第１１代目消防長に東山和史が就任
		第１２代目消防署長に坂上和人が就任
		新規消防職員６人採用
		職員定数 142 人、実員 131 人(吏員 129 人)
		(本部 18 人、本署 55 人、東 21 人、西 21 人、新宮 8 人、嶺南 8 人)

消防本部・消防署の事務分掌

消防本部

警防課

（１） 組織及び企画に関すること。
（２） 公印の管守に関すること。
（３） 儀式及び表彰に関すること。
（４） 職員の安全管理に関すること。
（５） 職員の研修に関すること。
（６） 文書の収受及び発送に関すること。
（７） 消防職員委員会に関すること。
（８） 消防用車両、庁舎及び各種の保険事務に関すること。
（９） 収入及び支出命令に関すること。
(10) 職員の給貸与品に関すること。
(11) 財産の取得及び管理、資機材等の購入並びに施設の修繕に関すること。
(12) 警防計画に関すること。
(13) 開発行為に関すること。
(14) 消防用車両の登録、検査及び点検整備に関すること。
(15) 消防自動車等の安全運転管理に関すること。
(16) 消防統計に関すること。
(17) 消防技術の研究及び指導に関すること。
(18) 四国中央市火災予防条例(平成16年四国中央市条例第186号)第45条に規定する届出に関すること。
(19) 災害現場活動の指揮支援及び調査に関すること。
(20) 医療機関との連絡調整に関すること。
(21) メディカルコントロール体制に関すること。
(22) 救急搬送証明に関すること。
(23) 救急及び救助業務等の研究及び指導に関すること。
(24) 救急及び救助の業務計画等に関すること。
(25) 応急手当の普及啓発に関すること。
(26) 消防水利の整備に関すること。
(27) 消防相互応援協定及び緊急消防援助隊に関すること。
(28) 消防団事務及び消防団との連絡協調に関すること。

予 防 課

（１） 予防事務の総合企画及び調査研究に関すること。
（２） 防火団体等の結成及び育成指導に関すること。
（３） 自衛消防組織等の訓練指導に関すること。
（４） 予防広報に関すること。
（５） 危険物安全協会に関すること。
（６） 危険物製造所等の許認可及び検査に関すること。
（７） 危険物製造所等の指導取締りに関すること。
（８） 高圧ガス及び液化石油ガスに関すること。
（９） 火薬類の消費等の許可に関すること。
(10) 危険物災害の調査に関すること。
(11) 建築許可等の同意事務に関すること。
(12) 消防用設備等の指導及び検査に関すること。
(13) 火気使用設備等の指導に関すること。
(14) 防火対象物の予防査察及び違反処理の指導に関すること。
(15) 防火対象物及び消防用設備等の点検報告に関すること。
(16) 防火管理者の育成指導に関すること。
(17) 四国中央市火災予防条例に規定する届出(第45条に係るものを除く。)に関すること。
(18) 火災の原因、損害調査及び火災統計報告に関すること。
(19) 火災証明等に関すること。
(20) 火災調査技術の研究及び指導に関すること。
(21) その他予防関係法令の執行に関すること。

消　防　署

（１）　水火災等の警戒、防御及び鎮圧に関すること。
（２）　災害現場活動の指揮に関すること。
（３）　警防計画及び消防調査に関すること。
（４）　火災等の原因、損害調査及び報告に関すること。
（５）　地水利調査及び保全に関すること。
（６）　消防用資機材及び機械器具の維持管理に関すること。
（７）　消防車両の点検整備に関すること。
（８）　救急、救助業務等に関すること。
（９）　火災、救急、救助計画及び訓練に関すること。
(10)　消防統計に関すること。
(11)　救急講習(応急手当の普及啓発等)に関すること。
(12)　防火対象物の予防査察及び違反処理の指導に関すること。
(13)　防火思想の普及に関すること。
(14)　防火対象物の使用開始の届出等に関すること。
(15)　自主防災組織並びに幼年及び少年消防クラブの指導に関すること。
(16)　署の庶務に関すること。
(17)　庁舎及び備品の維持管理に関すること。
(18)　消防通信及び記録に関すること。
(19)　気象情報に関すること。
(20)　通信指令業務に関すること。
(21)　通信指令室の維持管理に関すること。
(22)　消防通信機器及び気象機器の整備保全に関すること。
(23)　消防訓練の指導に関すること。
(24)　消防団事務及び消防団員の教養訓練に関すること。
(25)　署員の服務規律及び教養研修に関すること。
(26)　県防災行政無線に関すること。
(27)　危険家屋に関すること。
(28)　武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律(平成16年法律第112号)に関すること。
(29)　災害要援護者対策に関すること。
(30)　前各号に掲げるもののほか、消防業務に関すること。

歴代消防長

（令和6年4月1日現在）

代	氏　名	在職期間	備　考
初代	川崎喜三郎	S48.9.1 ～ S49.10.30	川之江市長（兼務）
2代	加地正雄	S49.11.1 ～ S59.3.31	
3代	高津光宏	S59.4.1 ～ S62.3.31	
4代	南　幸寛	S62.4.1 ～ H4.3.31	
5代	篠原修三	H4.4.1 ～ H7.3.31	
6代	矢野陽炎	H7.4.1 ～ H9.3.31	
7代	森川義彦	H9.4.1 ～ H12.3.31	
8代	松本公夫	H12.4.1 ～ H16.3.31	
※市町村合併により四国中央市が誕生し、四国中央市消防本部となる。			
初代	石川清美	H16.4.1 ～ H18.3.31	
2代	越智義茂	H18.4.1 ～ H20.3.31	
3代	石川道俊	H20.4.1 ～ H21.3.31	
4代	星川和昭	H21.4.1 ～ H23.3.31	
5代	林　章弘	H23.4.1 ～ H24.3.31	
6代	青木　基	H24.4.1 ～ H26.3.31	
7代	野村泰一	H26.4.1 ～ H28.3.31	
8代	井上　彰	H28.4.1 ～ H30.3.31	
9代	近藤英樹	H30.4.1 ～ R5.3.31	
10代	内田　斉	R5.4.1 ～ R6.3.31	
11代	東山和史	R6.4.1 ～ 現在に至る	

歴 代 消 防 署 長

（令和6年4月1日現在）

代	氏　　名	在 職 期 間	備　　考
初代	曽我部　孜	S48.9.1　～　S50.2.28	三島署長
	石 川 敏 男	S48.9.1　～　S50.2.28	川之江署長
2代	曽我部　孜	S50.3.1　～　S50.3.31	
3代	青 木 役 雄	S50.4.1　～　S52.3.31	
4代	曽我部　孜	S52.4.1　～　S56.3.31	
5代	合 田 五 郎	S56.4.1　～　S58.3.31	
6代	福 田 幸 夫	S58.4.1　～　H6.3.31	
7代	青 木 一 美	H6.4.1　～　H8.3.31	
8代	加 地　　勝	H8.4.1　～　H16.3.31	
※市町村合併により四国中央市が誕生し、四国中央市消防本部となる。			
初代	加 地　　勝	H16.4.1　～　H17.3.31	
2代	加 地 秀 俊	H17.4.1　～　H22.3.31	
3代	林　　章 弘	H22.4.1　～　H23.3.31	
4代	吉 岡 洋 一	H23.4.1　～　H24.3.31	
5代	鈴 木 隆 久	H24.4.1　～　H25.3.31	
6代	進 藤 正 三	H25.4.1　～　H28.3.31	
7代	山 川 秀 生	H28.4.1　～　H30.3.31	
8代	岩 本 伸 二	H30.4.1　～　H31.3.31	
9代	近 藤 恭 司	H31.4.1　～　R3.3.31	
10代	石 川 裕 次	R3.4.1　～　R5.3.31	
11代	東 山 和 史	R5.4.1　～　R6.3.31	
12代	坂 上 和 人	R6.4.1　～　現在に至る	

消 防 庁 舎 の 位 置 及 び 規 模

	所　在　地	構　造	敷地面積	建物延面積	建築年月
消防本部 消　防　署	四国中央市中曽根町 500番地	本館棟 RC造5階建 付属棟 (副訓練塔含む) RC造3階建 主訓練塔 RC造5階建	6,464.75㎡	5,963.92㎡ 693.59㎡ 199.65㎡	平成27年3月
東分署	四国中央市川之江町 1516番地の1	RC造2階建	1,383.7㎡	740.88㎡	平成10年11月
西分署	四国中央市土居町入野 178番地の1 土居庁舎地内	新築部分 鉄骨造2階建	225.10㎡	266.61㎡	平成23年3月
		土居庁舎 2階改修部	16,021.82㎡	4,225㎡の内 255㎡	既存 昭和57年12月 改築 平成23年3月
新宮分遣所	四国中央市新宮町馬立甲 153番地1	RC造平屋建 備蓄倉庫	1,047.88㎡	387.30㎡ 46.20㎡	平成26年3月
嶺南分遣所	四国中央市富郷町寒川山 463番地の4	RC造平屋建	400㎡	127.06㎡	昭和58年2月

四国中央市消防防災センターの概要

四国中央市消防防災センターは、「市民主役の防災力強化と行政機能の適正配置」をコンセプトとして、消防本部・消防署・消防団本部・建設部の移転により施設を再編・統合することを目的に建設されました。本館棟は、RC 造 5 階建で、市内公共施設では初めての基礎免震構造施設となっています。1 階部分に「東日本大震災の教訓」や「南海地震・連動型巨大地震への備え」をテーマとした「自助」「共助」の意識を育む体験型学習施設として「防災学習コーナー」を配置し、災害予防効果を高め、地域防災力の向上を図っています。また、3 階に高機能消防指令センター、4 階に市災害対策本部室を配置し、市民を守る防災拠点としての役割を担っています。

付属棟には、副訓練塔、消防設備学習室、濃煙・熱気訓練室、災害用備蓄倉庫等を設け、主訓練塔には、各種救助訓練設備を設けています。

「防災学習コーナー」

- 防災シアター
- 地震体験コーナー
- 瓦礫救助体験コーナー
- 消火体験コーナー
- 煙避難体験コーナー
- 通報体験コーナー

「防災学習コーナー」

「施設の利用について」

- 開館時間　午前 9 時 00 分～午後 5 時 15 分
- 休館日　　月曜日

※国民の休日にあたる場合は翌日

※年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

防災学習コーナーの利用には、予約が必要です。

「四国中央市消防防災センター」　・所在地　四国中央市中曽根町 500 番地

・電話番号　0896-28-9119（代表）

予算概況

消防予算（当初）

（千円）

年度	消防費					
		常備消防費	非常備消防費	消防施設費	水防費	災害対策費
27	1,406,921	1,169,015	140,203	66,166	381	31,156
28	1,463,256	1,196,404	149,999	83,226	381	33,246
29	1,513,202	1,223,192	141,669	119,957	381	28,003
30	1,466,871	1,208,161	146,638	88,019	381	23,672
令和元	1,447,293	1,234,638	138,103	56,303	387	17,862
2	1,416,802	1,195,542	148,095	31,067	389	41,709
3	1,583,673	1,143,832	146,964	292,488	389	0
4	1,670,752	1,194,067	167,884	308,472	329	0
5	1,446,803	1,160,163	165,447	120,930	263	0
6	1,724,559	1,184,157	164,279	375,893	230	0

市予算と消防予算

年度	一般会計（千円）	消防費（千円）	比率（%）	消防費に対する	
				住民1人当たり額（円）	1世帯当たり額（円）
27	35,670,000	1,406,921	3.94	15,498	36,458
28	38,310,000	1,463,256	3.82	16,276	37,783
29	35,970,000	1,513,202	4.21	16,989	38,948
30	40,150,000	1,466,871	3.65	16,651	37,734
令和元	40,960,000	1,447,293	3.53	16,635	37,275
2	35,540,000	1,416,802	3.99	16,460	36,449
3	36,850,000	1,583,673	4.3	18,600	40,646
4	37,810,000	1,670,752	4.42	19,903	43,044
5	38,620,000	1,446,803	3.75	17,442	37,259
6	42,260,000	1,724,559	4.08	21,108	44,459

※人口及び世帯数は、当該年度の４月１日現在の住民基本台帳登録人口の数値にて計算

四国中央市消防本部 組織図

（令和6年4月1日現在）

消防職員配置状況

（令和6年4月1日現在）

部署＼階級	計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
本部	18	1	1	2	9	2	1		2
本署	55		1	10	12	9	9	14	
東分署	21			3	4	4	2	8	
西分署	21			6	1	4	5	5	
新宮分遣所	8			2	2		2	2	
嶺南分遣所	8			2	2		1	3	
合計	131	1	2	25	30	19	20	32	2

消防職員勤続年数（平均勤続年数15年7月）

（令和6年4月1日現在）

年数別＼階級別	計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
5年未満	31						7	24	
5年以上～10年未満	21						13	8	
10年以上～15年未満	14					14			
15年以上～20年未満	7				4	3			
20年以上～25年未満	15				13	2			
25年以上～30年未満	22		1	9	12				
30年以上	21	1	1	16	1				2
合計	131	1	2	25	30	19	20	32	2

消防職員年齢（平均年齢41.3歳）

（令和6年4月1日現在）

年齢別＼階級別	計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
20歳未満	3							3	
20歳以上～25歳未満	22							22	
25歳以上～30歳未満	19						14	5	
30歳以上～35歳未満	16					10	4	2	
35歳以上～40歳未満	8					6	2		
40歳以上～45歳未満	10				7	3			
45歳以上～50歳未満	21				21				
50歳以上～55歳未満	21		1	17	2				1
55歳以上～	11	1	1	8					1
合計	131	1	2	25	30	19	20	32	2

消防学校研修状況

種目別＼年度別		計	24年以前	25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4	5
消防大学	新任消防長・学校長科	3	1				1		1					
	上級幹部科	10	10											
	幹部科	4	2							1				1
	予防科	10	9			1								
	警防科	13	12	1										
	救急科	4	3							1				
	救助科	2	1		1									
	火災調査科	4	3							1				
	実務講習	14	0			2	2	3	3	3		1		
救急救命士研修所（東京）		9	9											
救急救命士研修所（九州）		18	14	1	1		1		1					
救急救命士研修所（神戸）		1	1											
救急救命士新規養成課程（大阪市消防局）		1	0								1			
救急救命士薬剤投与追加講習（九州）		8	8											
救急救命士薬剤投与追加講習（広島）		2	2											
救急救命士薬剤投与追加講習（高知）		1	1											
指導救命士養成研修（九州）		6	0				1	1	1	1			1	1
神戸市消防学校	幹部研修	6	6											
	救急指導課程	8	8											
	救急Ⅱ課程	3	3											
	救急課程	19	19											
	救助課程	4	4											
	火災調査課程	36	36											
	予防査察課程	30	30											
	警防課程	3	3											
	機械課程	2	2											
大阪市消防学校救急課程		2	2											
愛媛県消防学校	初任科	151	97	6	2	4	2	7	4	6	6	5	7	5
	救急課程	67	67											
	救急Ⅱ課程	42	42											
	救急科	90	52	5	3		3	4	3	5	3	3	4	5
	警防科	14	3	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	
	初級幹部科	16	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	予防査察科	22	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	火災調査科	20	8	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
	救助科	35	18	1	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1
	機関員運転講習	10	0		2	2	2	2	2					
	大規模災害対策講習	9	0				2	2	1	1	1	1	1	
	実火災体験型訓練施設研修	9	0						2	2	2	1	2	
	通信指令員業務研修	1	0									1		
	中級幹部科（広島県・岡山県委託）	4	1	1	1				1					
	特殊災害科（香川県委託）	6	2	1	1			1	1					
	救命士追加講習（県MC主催）	26	0			4	6	6	7	3				
合計		745	495	20	17	20	27	33	33	29	18	17	21	15

予　防　編

第 17 回書道パフォーマンス甲子園

愛媛県立川之江高等学校　作

【作品紹介】

人生を冒険に例えて、様々な出来事を通して変化していく主人公の様子を曲や動きで表現しました。また、紙面の構成を冒険の地図のようにして、大字に造像記を用いることで力強い意志が伝わるようにしました。

消防設備を必要とする防火対象物数

（令和6年3月31日現在）

用途別			四国中央市
1	イ	劇場・映画館･観覧場	6
	ロ	公会堂・集会場	140
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ	
	ロ	遊技場・ダンスホール	15
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗	
	ニ	カラオケボックス・インターネットカフェ等	3
3	イ	待合･料理店	
	ロ	飲食店	90
4		百貨店・マーケット・物品販売店舗	213
5	イ	旅館・ホテル	29
	ロ	寄宿舎･下宿･共同住宅	676
6	イ	病院･診療所・助産所	75
	ロ	自力避難困難者入所福祉施設等	58
	ハ	老人福祉施設、児童養護施設等	95
	ニ	幼稚園・特別支援学校	7
7		小･中･高校･大学	84
8		図書館･博物館･美術館	9
9	イ	蒸気浴場･熱気浴場	1
	ロ	イ以外の公衆浴場	1
10		車両の停車場・船舶	3
11		寺社･寺院・教会	64
12	イ	工場･作業場	824
	ロ	スタジオ	
13	イ	車庫･駐車場	42
	ロ	航空機等の格納庫	
14		倉庫	890
15		前各項に該当しない事業所	349
16	イ	特定防火対象物を含む複合用途対象物	177
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	191
１６の２		地下街	
１６の３		準地下街	
17		重要文化財・史跡	9
18		延長５０m以上のアーケード	3
19		市町村の指定する山林	
20		自治省令で定める舟車	
合　　計			4,054

消防同意用途別　・　月別事務処理状況

（令和6年3月31日現在）

用途別＼月別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1	イ	劇場・映画館･観覧場													
	ロ	公会堂・集会場												1	1
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ													
	ロ	遊技場・ダンスホール		1					1						2
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗													
	ニ	カラオケボックス・インターネットカフェ等													
3	イ	待合･料理店													
	ロ	飲食店							1						1
4		百貨店・マーケット	1				2		2		1	2	1		9
5	イ	旅館・ホテル													
	ロ	寄宿舎･下宿･共同住宅			1			1						1	3
6	イ	病院･診療所									1				1
	ロ	自力避難困難者入所福祉施設等													
	ハ	老人福祉施設、児童養護施設等								1					1
	ニ	幼稚園・特別支援学校													
7		小、中、高等学校・大学・専修学校等													
8		図書館･博物館･美術館													
9	イ	蒸気浴場･熱気浴場													
	ロ	イ以外の公衆浴場													
10		車両の停車場・船舶													
11		寺社･寺院・教会											1		1
12	イ	工場･作業場	3	2	3	1		1	1	1	3	1		2	18
	ロ	スタジオ													
13	イ	車庫･駐車場										1	1		2
	ロ	航空機等の格納庫													
14		倉庫	1	1	1	3	2	2	1	3			1		15
15		前各項に該当しない事業所	1		3	2	2	4	1	1	2	1		3	20
16	イ	特定防火対象物を含む複合用途対象物											1	1	2
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物			1										1
１６の２		地下街													
１６の３		準地下街													
17		重要文化財・史跡													
18		延長５０m以上のアーケード													
19		市町村の指定する山林													
20		自治省令で定める舟車													
		専用住宅	2	4	1	3		1	4	2	3		2	3	25
		危険物施設													
		その他（工作物･昇降機等）											1		1
		合　　計	8	8	10	9	6	9	11	8	10	5	8	11	103

消防同意建築別　・月別処理状況

（令和5年度）

種別／月別		合計	新築	増築	改築	修繕	模様替	用途変更	その他
合計		103	87	6					10
住宅・その他	小計	26	25						1
	4月	2	2						
	5月	4	4						
	6月	1	1						
	7月	3	3						
	8月								
	9月	1	1						
	10月	4	4						
	11月	2	2						
	12月	3	2						1
	1月								
	2月	3	3						
	3月	3	3						
防火対象物	小計	77	62	6					9
	4月	6	5						1
	5月	4	3	1					
	6月	9	4	4					1
	7月	6	5						1
	8月	6	6						
	9月	8	7	1					
	10月	7	5						2
	11月	6	4						2
	12月	7	6						1
	1月	5	5						
	2月	5	5						
	3月	8	7						1

危険物施設数

（令和6年3月31日現在）

製造所の区分 / 倍数別 / 類別		計	製造所	貯蔵所								取扱所				
				小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	移送取扱所
合計		535	1	330	67	96	27	97	2	36	5	204	83	2	119	
倍数別	5倍以下	170	1	109	25	5	5	47	2	24	1	60	2		58	
	5倍をこえ10倍以下	99		66	13	4	20	24		1	4	33	8		25	
	10〃50〃	120		64	20	30	2	8		4		56	33	2	21	
	50〃100〃	46		30	3	11		9		7		16	8		8	
	100〃150〃	25		16	6	8		2				9	8		1	
	150〃200〃	21		12		6		6				9	8		1	
	200〃1000〃	44		24		23		1				20	16		4	
	1000〃5000〃	10		9		9						1			1	
	5000〃10000〃															
	10000倍をこえるもの															
類別	1															
	2	3		2	1	1						1			1	
	3															
	4	505	1	307	66	77	27	97	2	33	5	197	83	2	112	
	5															
	6	27		21		18				3		6			6	

危険物関係事務処理状況

（令和6年3月31日現在）

製造所等の区分 / 申請書等の別	計	製造所	貯蔵所								取扱所					その他
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	移送取扱所	
設置許可	3		2	2							1	1				
変更許可	21		4		3		1				17	7		10		
完成検査前検査	2		2		2						0					
完成検査	19		4	1	3						15	8		7		
廃止届	8		5		1	1	1		2		3	1		2		
仮使用・仮貯蔵・仮取扱承認	20		1		1						19	7		5		7
各種届	142		59	16	24	9	9		1		83	44		39		

消防法及び火災予防条例に基づく各種届出状況

（令和５年度）

区分		四国中央市
消防法関係	防火管理者選任届出	163
	防火管理者解任届出	153
	消防計画	194
	高圧ガス届（ＬＰＧ　・　アセチレン等）	77
	毒劇物	
	防火対象物点検報告	49
	消防用設備等点検報告	856
	消防用設備等着工届	68
	消防用設備等設置届	136
火災予防条例関係	防火対象物使用開始届	54
	禁止行為の解除申請	8
	炉・かまど設置届	1
	ボイラー設備設置届	13
	乾燥設備	3
	サウナ設備設置届	
	給湯湯沸設備設置届	
	火花を生ずる設備設置届	
	変電設備設置届	29
	急速充電設備設置届	
	燃料電池発電設備	
	発電設備設置届	3
	蓄電池設備設置届	7
	ネオン管灯設備設置届	
	水素ガスを充填する気球の設置届	
	火災とまぎらわしい行為の届	42
	煙火打上げ又は仕掛け届	7
	催物の開催届	
	水道の断水減水届	
	道路工事届	500
	露店等の開設届	90
	少量危険物貯蔵取扱い届	21
	指定可燃物貯蔵取扱い届	7
合計		2,481

危険物手数料徴収状況

（令和５年度）　単位：円

申請の別	設置許可	変更許可	完成検査前検査	完成検査	仮使用 仮貯蔵承認 仮取扱	計
計	111,000	502,500	22,000	243,000	108,000	986,500

警　防　編

消防車両等配備状況（本部・本署）

（令和６年４月１日現在）

車　両	車両画像	車名 車両番号	年式	乗車定員（人）	総重量	購入配置年月	原動機 車両型式 気筒・馬力等	原動機 排気量	ポンプ性能	備　考
消1 ポンプ車		日野・デュトロ 830 り 119	H19	6	5,170kg	H19.11	BDG-XZU378M 4気筒・150馬力	4,000	A-2	※緊急消防援助隊登録車両
消2 ポンプ車		いすゞ・エルフ 800 さ 8031	H15	6	4,690kg	H15.11	KR-NKR81GN 4気筒・130馬力	4,770	A-2	
消3 ポンプ車		いすゞ・エルフ 800 さ 8030	H15	6	4,690kg	H15.11	KR-NKR81GN 4気筒・130馬力	4,770	A-2	小型動力ポンプ（B-2）積載
消4 水槽付ポンプ車		日野・レンジャー 830 す 2014	H26	5	10,845kg	H26.2	SDG-GX7JGAA改 5気筒・220馬力	6,400	A-2	水：2,000ℓ（CAFS） ※緊急消防援助隊登録車両
消5 救助工作車		日野・レンジャー 830 す 2010	H22	6	10,910kg	H22.11	BDG-GX7JGWA改 5気筒・220馬力	6,400		
消6 梯子車		日野・スーパージャイロラダー 88 や 4653	H10	6	19,950kg	H10.2	KC-PR4FPDF 5気筒・390馬力	20,780		35m級
消7 化学車		日野・プロフィア 800 は 423	H15	6	14,070kg	H15.2	KL-FH2PLGA改 8気筒・349馬力	10,520	A-2	水：:2,000ℓ 薬液：1,200ℓ
消8 指揮車		トヨタ・ハイエース 830 さ 1502	H27	5	2,715kg	H27.2	CBF-TRH216K 4気筒・160馬力	2,690		電源車用牽引フック付き
消9 水槽車		日野・レンジャー 830 さ 2016	H28	3	19,495kg	H28.2	LDG-GK8JLAA 6気筒・270馬力	7,680		小型動力ポンプ（B-2）積載 ※緊急消防援助隊登録車両
消10 資機材搬送車		日野・デュトロ 830 さ 1603	H28	3	5,445kg	H28.3	TKG-XZU695M 4気筒・150馬力	4,000		最大積載量：2,000kg ※緊急消防援助隊登録車両
救1 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 830 せ 2023	R6	7	3,255kg	R6.3	3BF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		
救2 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 831 て 119	H31	7	3,195kg	H31.3	CBF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		※緊急消防援助隊登録車両
救7 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 830 ろ 119	H20	7	3,205kg	H20.9	CBF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		
消21 火災調査車		トヨタ・ハイエースバン 830 す 1503	H27	6	2,590kg	H27.2	CBF-TRH226K 4気筒・160馬力	2,690		
消22 広報車		トヨタ・タウンエースバン 800 さ 686	H11	6	2,225kg	H11.2	GC-KR42V 4気筒・76馬力	1,780		最大積載量：750kg
消23 広報車		スズキ・エブリイワゴン 880 あ 1128	H23	4	1,270kg	H23.8	ABA-DA64W 3気筒・48馬力	650		
消24 資機材搬送車		トヨタ・タウンエーストラック 800 さ 683	H11	3	2,695kg	H11.2	GA-YM65 4気筒・79馬力	1,810		最大積載量：900kg
消25 査察車		スズキ・エブリイワゴン 581 そ 4957	R2	4	1,200kg	R2.8	3BA-DA17W 3気筒・49馬力	650		
消26 査察車		ニッサン・セレナ 501 む 3050	R5	8	2,220kg	R5.12	5BA-NC28 4気筒・150馬力	1,990		4WD

消防車両等配備状況（東分署）

（令和６年４月１日現在）

車　両	車両画像	車名 車両番号	年式	乗車定員（人）	総重量	購入配置年月	原動機 車両型式 気筒・馬力等	原動機 排気量	ポンプ性能	備　考
消31 ポンプ車		日野・デュトロ 830 す 2019	H31	5	6,955kg	H31.3	TKG-XZU685M 4気筒・150馬力	4,000	A-2	水：600ℓ（CAFS） ※緊急消防援助隊登録車両
消32 小型ポンプ積載車		トヨタ・タウンエーストラック 800 さ 684	H11	3	2,695kg	H11.2	GA-YM65 4気筒・79馬力	1,810		小型動力ポンプ（B-2）積載
消33 広報車		トヨタ・タウンエースバン 800 さ 685	H11	6	2,225kg	H11.2	GC-KR42V 4気筒・76馬力	1,780		最大積載量：750kg
救3 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 830 ね 2020	R2	7	3,155kg	R2.12	3BF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		JA共済 寄贈

消防車両等配備状況（西分署）

（令和６年４月１日現在）

車　両	車両画像	車名 車両番号	年式	乗車定員（人）	総重量	購入配置年月	原動機 車両型式 気筒・馬力等	原動機 排気量	ポンプ性能	備　考
消41 ポンプ車		日野・デュトロ 830 せ 2013	H25	5	7,085kg	H25.2	TKG-XZU685M 4気筒・150馬力	4,000	A-2	水：600ℓ（CAFS）
消42 小型ポンプ積載車		日野・デュトロ 830 す 2018	H30	3	4,965kg	H25.2	TKG-XZU685M 4気筒・150馬力	4,000		小型動力ポンプ（B-2）積載 救助資機材積載
消43 広報車		スズキ・エブリイワゴン 880 あ 1129	H23	4	1,270kg	H11.2	ABA-DA64W 3気筒・48馬力	650		
救4 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 830す 5001	H24	7	3,175kg	H24.2	CBF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		JA共済 寄贈

消防車両等配備状況（新宮分遣所）

（令和６年４月１日現在）

車　両	車両画像	車名 車両番号	年式	乗車定員（人）	総重量	購入配置年月	原動機 車両型式 気筒・馬力等	原動機 排気量	ポンプ性能	備　考
消51 ポンプ車		日野・デュトロ 830 す 1803	H30	5	4,325kg	H25.3	TKG-XZU685M 4気筒・150馬力	4,000	A-2	水：600ℓ（CAFS） 小型動力ポンプ（B-2）積載
救5 救急車		トヨタ・ハイエース 830 や 119	H19	8	3,170kg	H19.3	CBF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		

消防車両等配備状況（嶺南分遣所）

（令和６年４月１日現在）

車　両	車両画像	車名 車両番号	年式	乗車定員（人）	総重量	購入配置年月	原動機 車両型式 気筒・馬力等	原動機 排気量	ポンプ性能	備　考
消61 ポンプ車		いすゞ・エルフ 800 さ 4026	H13	6	4,290kg	H13.12	KK-NKS71GAR 4気筒・133馬力	4,570	A-2	小型動力ポンプ（B-2）積載
救6 高規格救急車		トヨタ・ハイエース 830 せ 2021	R4	7	3,175kg	R4.3	3BF-TRH226S 4気筒・160馬力	2,690		

消防機械器具配備状況

車　両　等　　（令和６年４月１日現在）

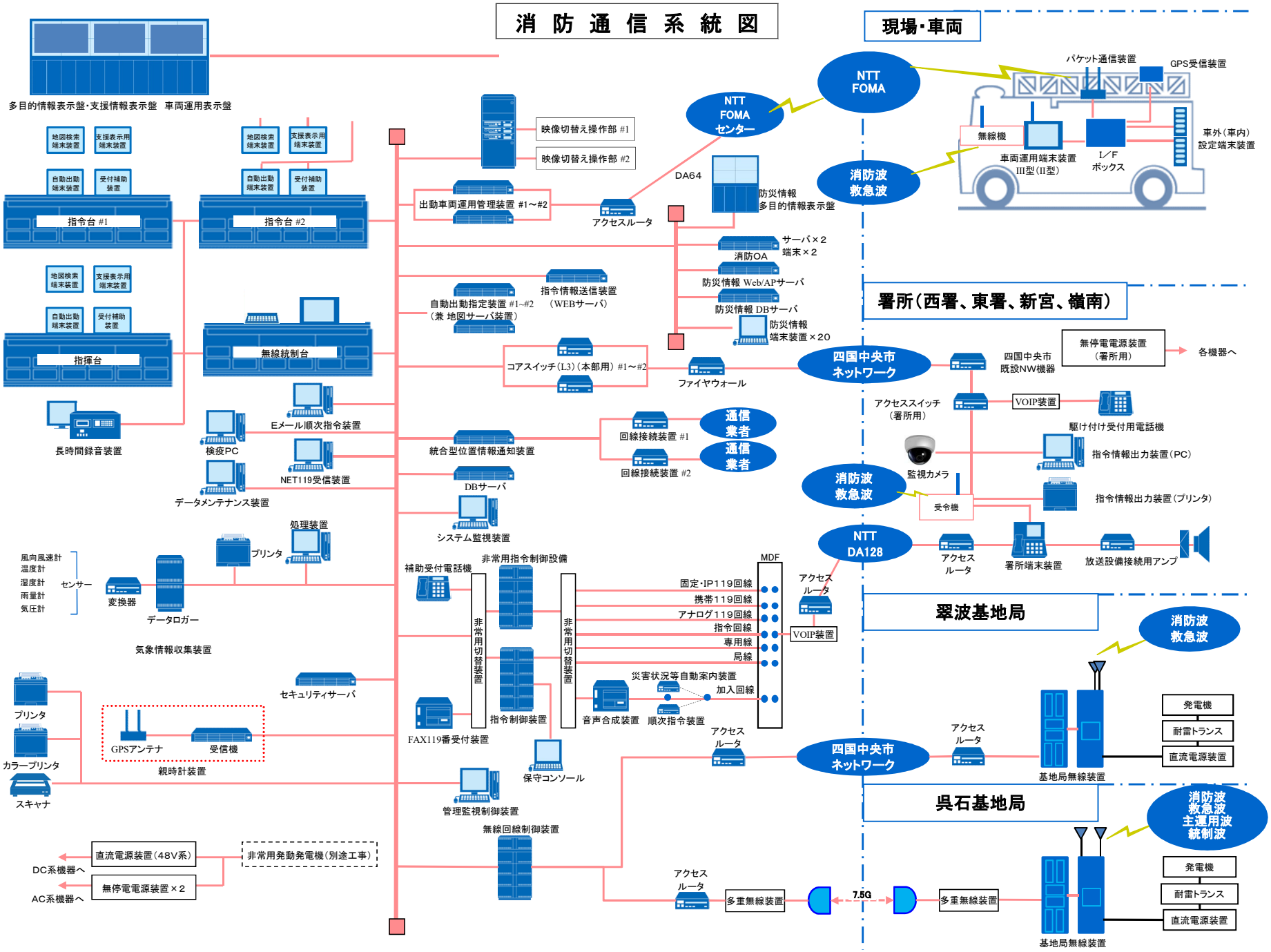
車種別 / 所属別	自動車合計	ポンプ自動車	（CAFS搭載車）	水槽付ポンプ自動車	（CAFS搭載車）	化学車	はしご車（30m級）	救助工作車Ⅱ型	小型動力ポンプ付水槽車	高規格救急自動車	2B型救急自動車	広報車	可搬ポンプ積載車	査察車	指揮車	搬送車	火災調査車	可搬ポンプ合計	B級	C級	D級
合計	31	4	3	0	1	1	1	1	1	7	0	4	2	2	1	2	1	7	7		
消防本部	6											2		2		1	1				
本署	13	3			1	1	1	1	1	3					1	1		3	3		
東分署	4		1							1		1	1					1	1		
西分署	4		1							1		1	1					1	1		
新宮分遣所	2		1							1								1	1		
嶺南分遣所	2	1								1								1	1		

消防器具（その１）

種別 / 所属別	放水器具						林野火災器具			救助器具														
	ホース65m/m	ホース50m/m	ホース40m/m	ラインプロ	クアドラノズル	エコファイター	布水槽	ジェットシューター	チェンソー	かぎ付きはしご	三連はしご	救命索発射銃	可搬ウインチ	大型油圧スプレッダー	マット型空気ジャッキ	ガス溶断器	大型油圧切断機	エンジンカッター	ハンマドリル	ガス測定器	放射線測定器	空気呼吸器	空気補充用ボンベ
合計	477	162	24	5	16	6	6	47	11	5	4	2	7	5	3	3	5	6	4	4	6	60	174
本署	214	93	9	2	7	2	1	21	4	4	2	1	3	2	2	2	2	2	2	2	6	39	120
東分署	79	15		2	4	1	1	3	2		1		1	1			1	1	1	1		6	14
西分署	57	39		1	4	2	2	16	2	1	1	1	2	2	1	1	2	2	1	1		10	23
新宮分遣所	62	15			1	1	1	3	1													3	9
嶺南分遣所	65		15				1	4	2				1					1				2	8

消防器具（その２）

種別 / 所属別	救助器具														救急器具								
	送排風機	耐電服	化学防護服	陽圧式化学防護服	耐熱服	救命胴衣	救命浮環	救命ボート	バスケット型担架	GPS	簡易画像探索機	熱画像直視装置	投光器	発電機	血中酸素飽和度測定器	心電図モニター	喉頭鏡	自動式人工呼吸器一式	自動体外式除細動器	手動式人工呼吸器	バックボード	自動式心マッサージ器	特定行為用資機材
合計	2	6	12	2	2	59	16	2	7	4	1	4	19	7	29	8	28	7	13	37	19	7	7
本署	1	4	12	2	2	33	6	2	3	1	1	2	10	2	19	4	15	3	7	17	8	3	3
東分署						10	2					1	3	1	3	1	4	1	2	6	4	1	1
西分署	1	2				7	4		2	1		1	2	2	3	1	4	1	2	6	3	1	1
新宮分遣所						6	2		1	1			3	1	2	1	2	1	1	4	2	1	1
嶺南分遣所						3	2		1	1			1	1	2	1	3	1	1	4	2	1	1


消 防 通 信 系 統 図
現場・車両
署所（西署、東署、新宮、嶺南）
翠波基地局
呉石基地局
多目的情報表示盤・支援情報表示盤　車両運用表示盤
地図検索端末装置
支援表示用端末装置
自動出動端末装置
受付補助装置
指令台 #1
指令台 #2
指揮台
無線統制台
長時間録音装置
検疫PC
Eメール順次指令装置
NET119受信装置
データメンテナンス装置
映像切替え操作部 #1
映像切替え操作部 #2
出動車両運用管理装置 #1～#2
自動出動指定装置 #1~#2
（兼 地図サーバ装置）
指令情報送信装置
（WEBサーバ）
コアスイッチ（L3）（本部用）#1～#2
ファイヤウォール
統合型位置情報通知装置
回線接続装置 #1
回線接続装置 #2
通信業者
通信業者
DBサーバ
システム監視装置
処理装置
プリンタ
風向風速計
温度計
湿度計
雨量計
気圧計
センサー
変換器
データロガー
気象情報収集装置
セキュリティサーバ
プリンタ
カラープリンタ
スキャナ
GPSアンテナ
受信機
親時計装置
補助受付電話機
非常用指令制御設備
非常用切替装置
指令制御装置
FAX119番受付装置
保守コンソール
管理監視制御装置
無線回線制御装置
直流電源装置（48V系）
非常用発動発電機（別途工事）
DC系機器へ
無停電電源装置×2
AC系機器へ
NTT FOMA センター
DA64
アクセスルータ
防災情報 多目的情報表示盤
サーバ×2 端末×2
消防OA
防災情報 Web/APサーバ
防災情報 DBサーバ
防災情報 端末装置×20
MDF
固定・IP119回線
携帯119回線
アナログ119回線
指令回線
専用線
局線
加入回線
災害状況等自動案内装置
音声合成装置
順次指令装置
NTT FOMA
消防波 救急波
パケット通信装置
GPS受信装置
無線機
車両運用端末装置 III型（II型）
L／F ボックス
車外（車内）設定端末装置
四国中央市 ネットワーク
四国中央市 既設NW機器
無停電電源装置（署所用）
各機器へ
アクセススイッチ（署所用）
VOIP装置
駆け付け受付用電話機
指令情報出力装置（PC）
監視カメラ
受令機
指令情報出力装置（プリンタ）
NTT DA128
アクセスルータ
署所端末装置
放送設備接続用アンプ
アクセスルータ
VOIP装置
消防波 救急波
発電機
耐雷トランス
直流電源装置
基地局無線装置
四国中央市 ネットワーク
アクセスルータ
アクセスルータ
多重無線装置
7.5G
多重無線装置
消防波 救急波 主運用波 統制波
発電機
耐雷トランス
直流電源装置
基地局無線装置

無 線 通 信 施 設 状 況

〔基地局・固定局〕　　（令和6年4月1日現在）

識別信号	局種別等		電波型式	デジタル周波数 活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3	出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
ちゅうおうしょうぼう すいは	基地局	第1装置	G1D・G1E	○						10	JDB4C3D1-5B	NEC	四国中央市金砂町平野山大段山306-1	備1
		第2装置			○					10	〃	〃		
ちゅうおうしょうぼう くれいし	基地局	第1装置					○	○	○	20	JDB4C3D1-5B	〃	四国中央市川滝町領家南山峰743-325四国中央消防呉石無線中継所	備1
		第2装置				○				20	〃	〃		
		第3装置		○	○	○	○	○	○	20	JDB4C3D1-5C	〃		備2
		第4装置		○						20	〃	〃		
		第5装置			○					20	〃	〃		備2
		第6装置		○	○	○	○	○	○	20	〃	〃		
ちゅうおうしょうぼう くれいし	固定局	第1装置	G7W	固定波						0.003	TR-712形無線送受信装置	〃		
		第2装置	〃	固定波							TR-712形無線送受信装置	〃		
ちゅうおうしょうぼう		第1装置	〃	固定波							TR-712形無線送受信装置	〃	四国中央市中曽根町500消防本部内	
		第2装置	〃	固定波							TR-712形無線送受信装置	〃		

識別信号	局種別等		電波型式	デジタル周波数 活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3	出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
しこくちゅうおう ほうおう	基地局	第1装置	G1D・G1E				○			10	2M109GT	東芝	説1※	備3
		第2装置					○			10	〃	〃		
しこくちゅうおう くろだ		第1装置					○			10	〃	〃	説2※	備4
		第2装置					○			10	〃	〃		
しこくちゅうおう ささがみね		第1装置					○			10	〃	〃	説3※	備5
		第2装置					○			10	〃	〃		
しこくちゅうおう しんやま		第1装置					○			10	EF-2307	松下	説4※	備6
		第2装置					○			10	〃	〃		
しこくちゅうおう はくち		第1装置					○			10	〃	〃	説5※	備7
		第2装置					○			10	〃	〃		

説1　四国中央市金田町半田樋之口丙378-2地先〔法皇トンネル坑内　通信機械室内〕
説2　四国中央市新宮町新宮黒田甲271〔黒田トンネル通信機械室内〕
説3　高知県長岡郡大豊町字立川上名〔笹ヶ峰トンネル坑内　通信機械室〕
説4　徳島県三好市池田町字シンヤマ3758〔池田トンネル通信機械室内〕
説5　徳島県三好市池田町馬路字谷奥〔白地トンネル副通信機械室内〕
※アナログ無線機の被遠隔制御部を流用、デジタル無線機はNEXCO整備

〔消防本部〕

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数 活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3	出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
ちゅうおうしょうぼう 21	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	火災調査車	デュアル
ちゅうおうしょうぼう 22	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	広報車	〃
ちゅうおうしょうぼう 23	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	広報車	〃
ちゅうおうしょうぼう 24	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	資機材搬送車	〃
ちゅうおうしょうぼう 25	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	査察車	〃
ちゅうおうしょうぼう 26	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	査察車	〃
ちゅうおうしょうぼう 200	〃		○	○	○	○	○	○	5	JDT4C3C1-3A	〃	現場本部用可搬	〃
ちゅうおうしょうぼう 211	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M010/G-B	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 212	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 213	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

無線通信施設状況

〔本署〕

（令和6年4月1日現在）

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3					
ちゅうおうしょうぼう 1	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	ポンプ車	デュアル
ちゅうおうしょうぼう 2	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	ポンプ車	〃
ちゅうおうしょうぼう 3	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	ポンプ車	〃
ちゅうおうしょうぼう 4	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	タンク車	〃
ちゅうおうしょうぼう 5	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	救助工作車	〃
ちゅうおうしょうぼう 6	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	はしご車	〃
ちゅうおうしょうぼう 7	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	化学車	〃
ちゅうおうしょうぼう 8	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	指揮車	〃
ちゅうおうしょうぼう 9	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	水槽車	〃
ちゅうおうしょうぼう 10	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	資機材搬送車	〃
ちゅうおうきゅうきゅう 1	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	高規救急車	〃
ちゅうおうきゅうきゅう 2	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	高規救急車	〃
ちゅうおうきゅうきゅう 7	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	高規救急車	〃
ちゅうおうしょうぼう 100	〃		○	○	○	○	○	○	5	JDT4C3C1-3A	〃	現場本部用可搬	〃
ちゅうおうしょうぼう 111	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M010/G-B	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 112	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 121	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 122	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 131	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 132	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 141	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 142	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 151	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 152	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 161	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 171	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 181	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 182	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 183	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 191	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 192	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 110	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 120	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 170	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

〔 東 分 署 〕

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3					
ちゅうおうしょうぼう 31	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	ポンプ車	デュアル
ちゅうおうしょうぼう 32	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	積載車	〃
ちゅうおうしょうぼう 33	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	広報車	〃
ちゅうおうきゅうきゅう 3	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	高規救急車	〃
ちゅうおうしょうぼう 300	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	現場本部用可搬	〃
ちゅうおうしょうぼう 311	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 312	〃		○	○	○	○	○	○	5	JDT4C3C1-3A	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 321	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M010/G-B	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 322	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 330	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

〔 西 分 署 〕

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3					
ちゅうおうしょうぼう 41	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	ポンプ車	デュアル
ちゅうおうしょうぼう 42	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	積載車	〃
ちゅうおうしょうぼう 43	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	広報車	〃
ちゅうおうきゅうきゅう 4	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	高規救急車	〃
ちゅうおうしょうぼう 400	〃		○	○	○	○	○	○	5	JDT4C3C1-2A	〃	現場本部用可搬	〃
ちゅうおうしょうぼう 411	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M009/G-B	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 412	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 421	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 441	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 442	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 440	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

〔新宮分遣所〕

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3					
ちゅうおうしょうぼう 51	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	ポンプ車	デュアル
ちゅうおうきゅうきゅう 5	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	救急車	〃
ちゅうおうしょうぼう 511	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M009/G-B	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 512	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 550	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

〔嶺南分遣所〕

識別信号	局種別等	電波型式	デジタル周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			活動波1	活動波2	主運用波	統制波1	統制波2	統制波3					
ちゅうおうしょうぼう 61	陸上移動局	G1D・G1E	○	○	○	○	○	○	5	JDC4H1C1-1D	NEC	ポンプ車	デュアル
ちゅうおうきゅうきゅう 6	〃		○	○	○	○	○	○	5	〃	〃	救急車	〃
ちゅうおうしょうぼう 611	〃		○	○	○	○	○	○	1	NE2-5M009/G-B	〃	携帯	
ちゅうおうしょうぼう 612	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 660	〃		○	○	○	○	○	○	1	〃	〃	〃	

〔署活動用携帯型無線〕

識別信号	局種別等	電波型式	400MHz帯周波数						出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
			署1	署2	緊援隊 G1～G17	防災 相互波							
ちゅうおうしょうぼう 711	陸上移動局	F3E	○	○					1	STR-400F-P1B	SATORI	本署	
ちゅうおうしょうぼう 712	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 713	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 721	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 722	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 731	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 732	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 741	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 742	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 743	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 751	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 752	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 753	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 761	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 771	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 781	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 782	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 783	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 791	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 792	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 710	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 720	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 770	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 821	〃		○	○					1	〃	〃	消防本部	
ちゅうおうしょうぼう 822	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 881	〃		○	○	○	○			1	TCP-235	KENWOOD	〃	
ちゅうおうしょうぼう 882	〃		○	○	○	○			1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 831	〃		○	○					1	STR-400F-P1B	SATORI	東分署	
ちゅうおうしょうぼう 832	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 833	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 834	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 835	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 830	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 841	〃		○	○					1	〃	〃	西分署	
ちゅうおうしょうぼう 842	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 843	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 844	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 845	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 846	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 840	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 851	〃		○	○					1	〃	〃	新宮分遣所	
ちゅうおうしょうぼう 852	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 850	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうしょうぼう 861	〃		○	○					1	〃	〃	嶺南分遣所	
ちゅうおうしょうぼう 862	〃		○	○					1	〃	〃	〃	
ちゅうおうきゅうきゅう 860	〃		○	○					1	〃	〃	〃	

〔既設アナログ無線〕

識別信号	局種別等	電波型式	アナログ周波数 1CH	2CH	3CH	4CH	7CH		出力W	無線機型式	メーカー	設置状況等	備考
ちゅうおうしょうぼう 700	陸上移動局	F3E					○		10	VM-1135T	沖		
ちゅうおうしょうぼう 701	〃						○		1	VM-1130T	〃		
ちゅうおうしょうぼう 702	〃						○		1	VM-1138T	〃		
ちゅうおうしょうぼう 703	〃						○		1	VM-1130T	〃		
ちゅうおうしょうぼう 704	〃						○		1	VM-1138T	〃		

(凡　例)

備1　消防本部通信指令室より固定波による無線遠隔制御装置付

備2　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付

備3　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付
出　　力　法皇トンネル下り線内北坑口方向 4.0W
　　法皇トンネル下り線内南坑口方向 1.0W
　　法皇トンネル上り線内北坑口方向 4.0W
　　法皇トンネル上り線内南坑口方向 1.0W

備4　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付
出　　力　大影トンネル下り線内　1.67W
　　黒田トンネル下り線内　3.33W
　　大影トンネル上り線内　1.67W
　　黒田トンネル上り線内　3.33W

備5　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付
出　　力　笹ヶ峰トンネル下り線内北坑口方 3.3W
　　笹ヶ峰トンネル下り線内南坑口方 1.67W
　　笹ヶ峰トンネル上り線内北坑口方 4.0W
　　笹ヶ峰トンネル上り線内南坑口方 1.0W

備6　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付
出　　力　新山トンネル向　0.91W
　　池田トンネル向　9.09W

備7　消防本部通信指令室より有線遠隔制御装置付
出　　力　白地トンネル西坑口方向　0.91W
　　白地トンネル東坑口方向　9.09W

(注)　デジタル周波数欄の活動波・主運用波・統制波及び固定波については、次のとおり。

	移動局送信波	基地局送信波
活動波１	264.06875MHｚ	273.06875MHｚ
活動波２	264.89375MHｚ	273.89375MHｚ
主運用波	265.38125MHｚ	274.38125MHｚ
統制波１	265.90625MHｚ	274.90625MHｚ
統制波２	265.23125MHｚ	274.23125MHｚ
統制波３	265.53125MHｚ	274.53125MHｚ
固定波	7,440MHｚ・7,600MHｚ	

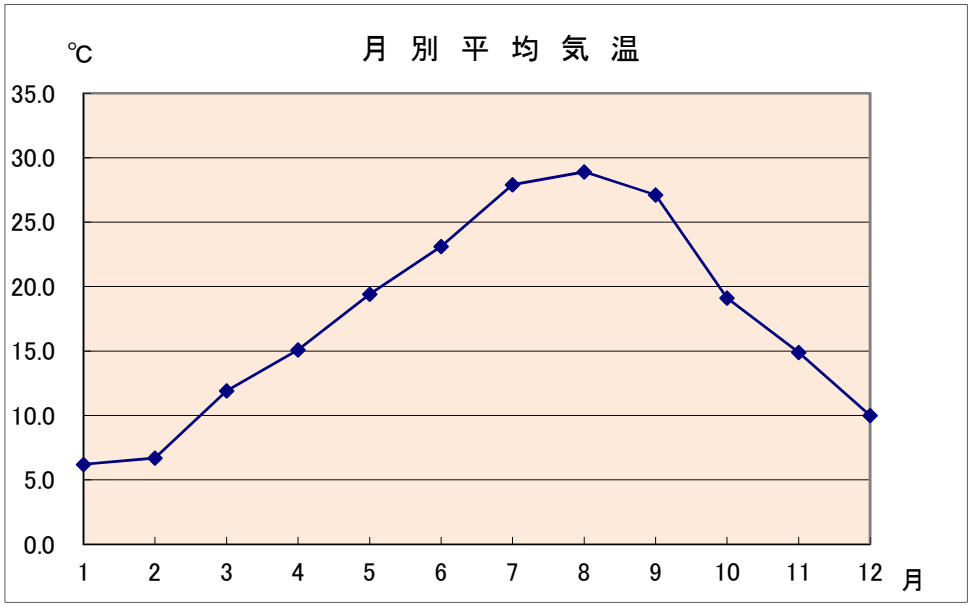
(注)　アナログ周波数欄の１・2・3・4CH及び固定波については、次のとおり。

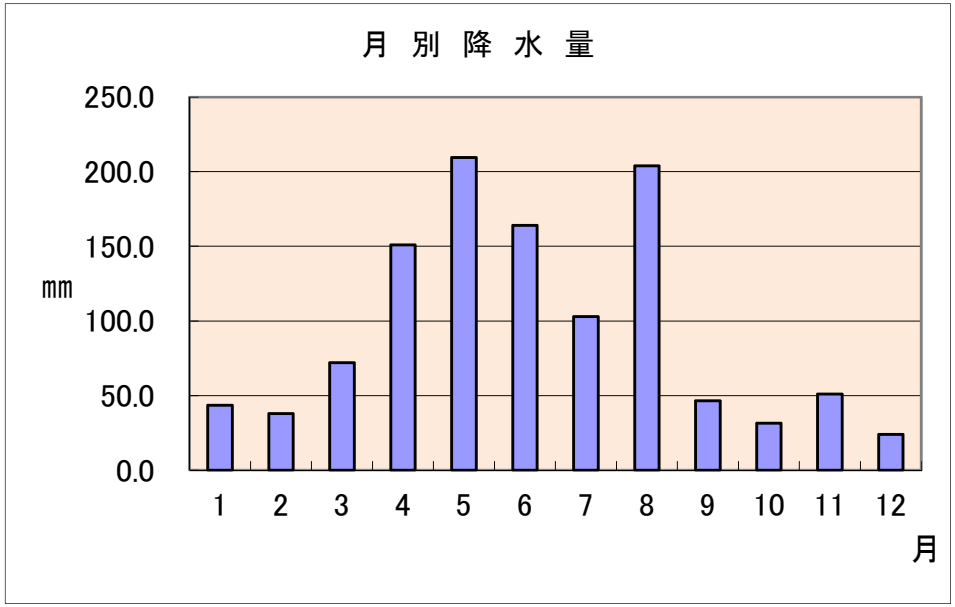
1CH	市町村波	153.83MHｚ
2CH	県内共通波	152.81MHｚ
3CH	市町村波	150.33MHｚ
4CH	全国共通波1	150.73MHｚ
5CH	全国共通波2	148.75MHｚ
6CH	全国共通波3	154.15MHｚ
7CH	防災相互波	158.35MHｚ
固定波		151.59MHｚ

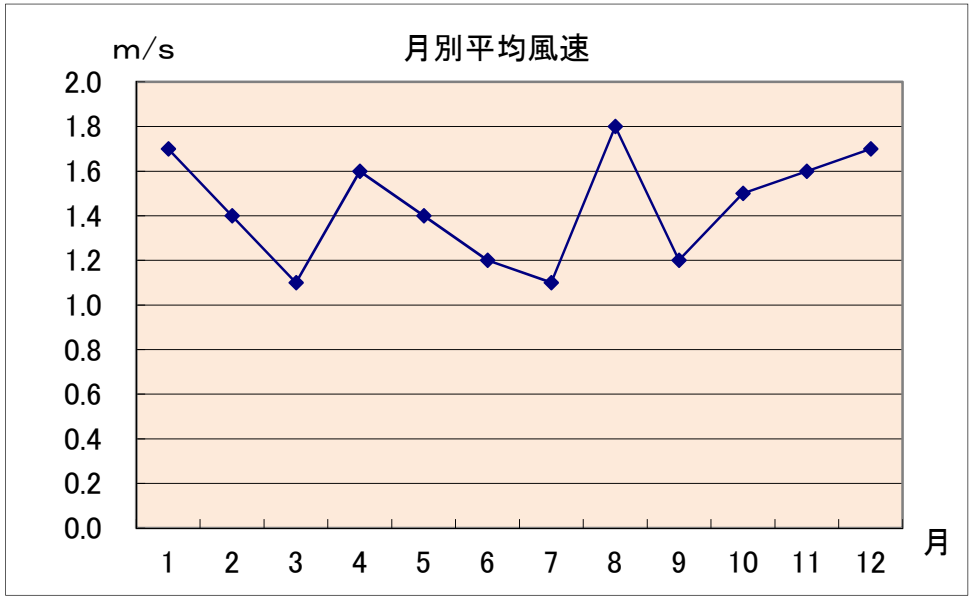
○及び◎が実装
4CH欄の◎が実装
4CH欄の◎が実装

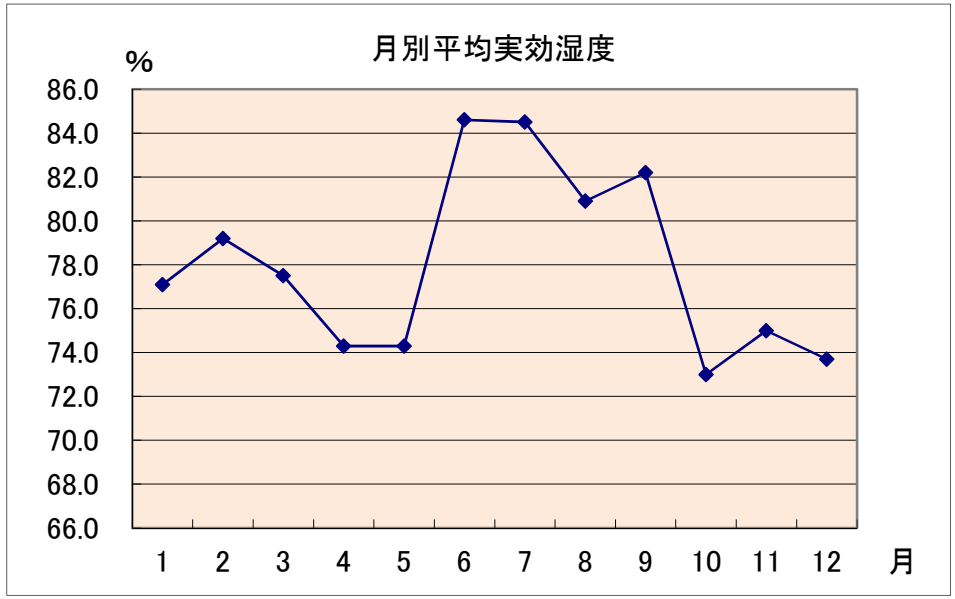
令和５年　気　象　状　況

区分	天気（日）				気温（℃）			湿度（%）						降水量（㎜）	風向・風速（m／s）			
								相対			実効				降雨	平均	最高	最高
	晴	曇	雨	雪	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	月計	日数	風速	風速	風向
1	20	6	4	1	17.4	-2.4	6.2	98.8	43.8	78.0	89.8	66.7	77.1	43.5	11	1.7	21.2	西南西
2	20	4	4	0	14.2	-0.8	6.7	99.1	44.9	79.7	89.3	72.3	79.2	38.0	9	1.4	13.3	北北西
3	21	4	6	0	21.7	1.3	11.9	98.8	17.2	77.4	93.0	67.6	77.5	72.0	10	1.1	27.5	南南東
4	17	7	6	0	25.0	7.6	15.1	99.1	28.6	75.0	84.2	61.1	74.3	151.0	13	1.6	25.4	南
5	21	6	4	0	29.8	9.5	19.4	99.1	28.0	75.2	87.5	61.5	74.3	209.5	10	1.4	24.7	南
6	13	9	8	0	33.0	15.6	23.1	98.1	30.2	84.8	92.2	74.5	84.6	164.0	13	1.2	23.8	南
7	19	7	5	0	35.1	21.5	27.9	98.6	46.3	83.8	91.6	76.8	84.5	103.0	9	1.1	19.6	南
8	20	2	9	0	35.7	23.5	28.9	98.6	45.8	81.6	87.0	73.0	80.9	204.0	13	1.8	24.3	北東
9	21	7	2	0	34.1	18.5	27.1	98.6	46.3	82.2	86.3	76.5	82.2	46.5	9	1.2	13.6	南南東
10	20	8	3	0	26.8	11.0	19.1	98.8	39.9	72.8	79.4	64.5	73.0	31.5	6	1.5	21.0	西北西
11	20	6	4	0	27.1	5.2	14.9	98.0	40.5	74.9	83.3	67.3	75.0	51.0	7	1.6	19.8	西南西
12	18	7	5	1	24.0	0.7	10.0	98.3	39.7	74.3	84.2	65.5	73.7	24.0	9	1.7	18.8	西
	計	計	計	計	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	計	計	平均	最高	風向
	230	73	60	2	35.7	-2.4	17.5	99.1	17.2	78.3	93.0	61.1	78.0	1138.0	119.0	1.4	27.5	南


月別平均気温
℃
35.0
30.0
25.0
20.0
15.0
10.0
5.0
0.0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月


月別降水量
mm
250.0
200.0
150.0
100.0
50.0
0.0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月


月別平均風速
m/s
2.0
1.8
1.6
1.4
1.2
1.0
0.8
0.6
0.4
0.2
0.0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月


月別平均実効湿度
%
86.0
84.0
82.0
80.0
78.0
76.0
74.0
72.0
70.0
68.0
66.0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月

警　報　・　注　意　報　・　情　報　の　発　表　状　況

令和5年

	警報									注意報													気象情報		
	暴風	暴風雪	大雨	大雪	高潮	波浪	洪水	津波	他	強風	風雪	大雨	大雪	濃霧	雷	乾燥	霜	低温	高潮	波浪	洪水	津波	他	火災	高温	竜巻
1月										9	4		4	2	7	13		6		10				17		
2月										3					1	11	1	5		2				13		
3月										4					6	10	20			4				11		1
4月										7				2	13	9	7			7				11		1
5月										2		2			9	5				2				3		1
6月			1				1			1		3			14					1	1			1		
7月												2			20				3		1					6
8月			3							6		10			33				8	6	3				1	5
9月					1										18				6							
10月										2					8	4			1	2				6		1
11月										12			1		8	6				12				17		4
12月										9	3				9	7				12				13		
計	0	0	4	0	1	0	1	0	0	55	7	17	5	4	146	65	28	11	18	58	5	0	0	92	1	19

火　　災

１　出火件数

２　焼損程度

３　出火原因

４　死傷者

５　通報状況

６　初期消火の状況

７　今後の課題

８　火災統計

火災業務の概況

令和５年中における火災業務の概況は、９件の火災が発生し、損害額４億 8,216 万９千円、焼損棟数６棟、焼損床面積 3,981 ㎡、り災世帯５世帯、り災人員 10 人となっており、人的被害について死者はなし、負傷者が１人となっている。

前年と比較すると、出火件数は８件減少しているが、損害額は３億 0,053 万５千円、焼損床面積は 3,260 ㎡それぞれ増加している。死者は前年に続き発生していない。負傷者は１人減少している。

出火件数の内訳をみると、建物火災が最も多く６件、次いでその他の火災が３件の順となっている。

出火原因をみると、たばこ、溶接機・溶断機が各２件、放火、その他が各１件となっており、不明・調査中が３件となっている。

（１・２・９表　参照）

１　出火件数

出火件数は、前年と比較し８件減少して９件である。これは、約 41 日に１件の割合で火災が発生したことになる。

出火率(人口１万人当たりの出火件数)は 1.09 となり、令和４年中の愛媛県の出火率 3.53 より 2.44 ポイント、全国の出火率 2.88 より 1.79 ポイントそれぞれ下回っている。

（１）火災種別ごとの出火件数

火災種別ごとの出火件数は、建物火災が６件(全体の 66.7%)、次いで、その他の火災が３件（同 33.3%）の順となっている。

前年と比較すると、その他の火災が１件増加し、建物火災は２件減少している。また、前年発生していた車両火災、林野火災については発生していない。

（２表　参照）

（２）建物火災用途別ごと出火件数

建物火災６件のうち、用途別ごとの出火件数は、共同住宅、工場作業場が各２件（建物火災の 33.3%)、住宅、その他（集会所）が各１件（同各 16.7%）となっている。

（３表　参照）

（３）月別出火件数

月別出火件数は、８月に２件と最も多く、１月、２月、３月、５月、９月、10 月、12 月が各１件となっており、４月、６月、７月、11 月に火災は発生していない。

（４表　参照）

（４）地域別出火件数

地域別の出火件数は､伊予三島地域が６件(全体の 66.7%)､土居地域が２件(同各 22.2%)、川之江地域が１件（同 11.1%)、となっており、新宮地域においては発生していない。

これを出火率（人口１万人当たり）でみると、伊予三島地域が 1.77、土居地域が 1.35、川之江地域が 0.31 の順となっている。

（５・７表　参照）

（５）時間帯別出火件数

時間帯別の出火件数は、14 時～15 時が３件と最も多くなっている。０時～１時、３時～４時、10 時～11 時、11 時～12 時、15 時～16 時、19 時～20 時が各１件となっている。

（６表　参照）

2　焼損程度

建物火災は６件発生し、焼損棟数は６棟となっている。
建物火災１件当たりの焼損棟数は 1.0 棟となり、昨年の 2.0 棟と比較すると減少している。
り災世帯数は前年より２世帯減少し５世帯、り災人員も５人減少し 10 人となっている。
（２・３表　参照）

建物火災における焼損程度をみると、焼損棟数６棟のうち、全焼１棟、半焼１棟、部分焼３棟、ぼや１棟となっている。
建物の焼損床面積は、前年と比較すると 3,260 ㎡増加し 3,981 ㎡となり、焼損表面積は前年 38 ㎡であったが令和５年は０㎡となっている。
（２・７表　参照）

損害額は、前年と比較すると 3 億 0,053 万 3 千円増加して 4 億 8,216 万 9 千円である。１件当たりの損害額では 5,357 万 4 千円となっている。
火災種別ごとの損害額は、建物火災が 4 億 7,938 万円、その他の火災が 278 万 9 千円となっている。
（１～３・５表　参照）

損害額別の火災状況をみると、１件の火災につき 10 万円以上 100 万円未満が４件、100 万円以上 500 万円未満が３件、1 万円以上５万円未満、1,000 万円以上が各１件となっている。
（８表　参照）

3　出火原因

出火原因別をみると、たばこ、溶接機・溶断機が各２件、放火、その他が各１件、不明・調査中が３件となっている。
（９表　参照）

過去10年間の出火原因

原因順位 年別	出火原因別 第1位	第2位	第3位
２６年	放火　２件	こんろ、電灯・電話配線、配線器具、火遊びマッチ・ライター、たき火、溶接機・溶断機、火入れ　各１件	
２７年	排気管、電灯・電話等配線、マッチ･ライター　各２件	たばこ、配線器具、溶接機・溶断機、灯火、放火　各１件	
２８年	たばこ　５件	たき火、放火の疑い　各２件	電気機器、電灯・電話等配線､マッチ･ライター、溶接機・溶断機、取灰　各１件
２９年	たき火　２件	たばこ、風呂かまど、煙突・煙道、電気機器、電灯・電話等配線、配線器具、火入れ　各１件	
３０年	こんろ、火入れ、放火の疑い　各３件	焼却炉、排気管、電灯・電話等配線　各２件	たき火、衝突の火花、取灰、放火　各１件
令和元年	たばこ、排気管　各２件	こんろ、内燃機関マッチ・ライター衝突の火花　各１件	
２年	溶接機・溶断機　２件	こんろ、焼却炉、電灯・電話等配線、火入れ、放火の疑い　各１件	
３年	こんろ、排気管　各２件	たばこ、風呂かまどたき火、放火、放火の疑い　各１件	
４年	排気管、電気機器、電灯・電話等配線、溶接機・溶断機、火入れ、放火、放火の疑い　各１件		
５年	たばこ、溶接機・溶断機　各２件	放火・その他　各１件	

4　死傷者

死傷者の状況について死者はなし、負傷者が１人発生している。

（２・７表　参照）

5　通報状況

消防機関が火災を覚知した方法は、火災報知専用電話(119番)によるものが８件で、その内訳は携帯電話が５件、固定電話（ＩＰ電話含む）が３件である。次いで、警察電話が１件となっている。

（10 表　参照）

6　初期消火の状況

火災現場で何らかの初期消火を実施したものが４件あり、そのうち１件の火災現場では初期消火が功を奏し、鎮火若しくはこれに近い状態であった。

7　今後の課題

令和５年中の火災は概況で述べたとおり、出火件数が９件と前年に比べて８件減少、昭和48 年に前身の宇摩地区市町村圏組合消防本部が発足して以降、最少の出火件数となり、火災予防の継続的な啓発により防火意識が浸透しつつある結果となっている。

損害額については 4 億 8,216 万 9 千円と前年に比べ 3 億 0,053 万 5 千円増加している。これは工場火災により建物及び製品等の収容物が焼損したことで大幅な増加となっている。

死傷者をみると、火災による死者は発生していないが、応急消火義務者が消火活動時に煙を吸ったことで意識を消失、救助され救急搬送されたことによる負傷者が１人発生している。

火災出火別ごとの出火状況をみると、建物火災が６件で、内共同住宅、工場、作業場が各２件、住宅、その他（集会所）が各１件で全体の 66.7%を占め、火災総数の半数以上を占めている。焼損棟数は前年から 10 棟減少し６棟、そのうち全焼１棟、半焼１棟、部分焼３棟、ぼや１棟となっている。

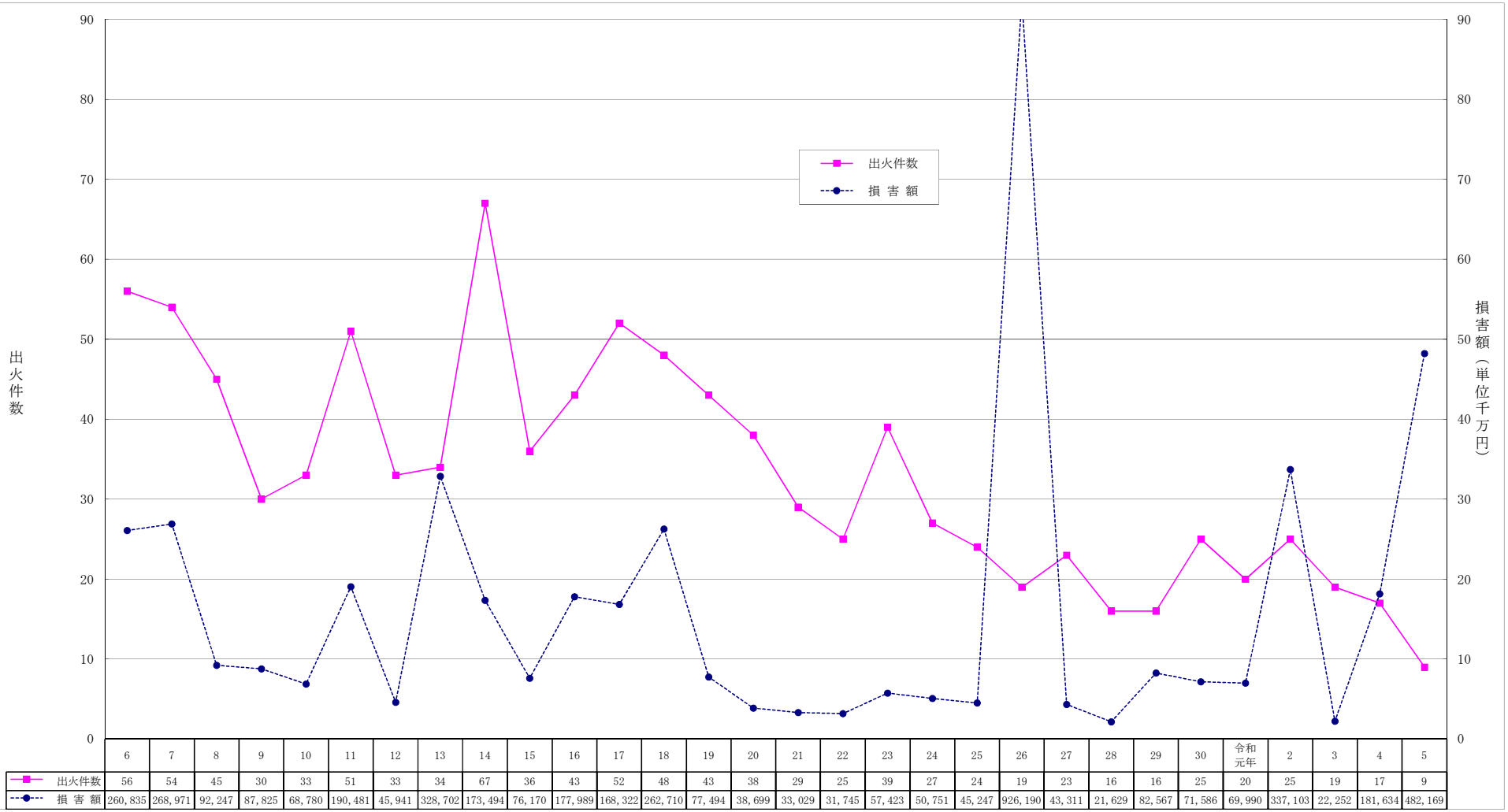
出火原因をみると、たばこ、溶接機・溶断機が各２件であり、放火、その他が各１件と火気取扱い時の不注意など、失火による火災が多く占めている。

これらを踏まえると、防火意識の高揚を図ることで防げた火災が多く、人的・物的被害軽減のためには、火気の取扱いについて注意を払うことが必要不可欠であることを再認識する結果となった。

引き続き、防火及び防災対策の普及啓発に努めるとともに、特に住宅用火災警報器の点検を実施し、故障・老朽化した機器の早期交換など火災対策の推進を図らなければならない。

8 火災統計

(1表) 火災の推移



	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	2	3	4	5
出火件数	56	54	45	30	33	51	33	34	67	36	43	52	48	43	38	29	25	39	27	24	19	23	16	16	25	20	25	19	17	9
損 害 額	260,835	268,971	92,247	87,825	68,780	190,481	45,941	328,702	173,494	76,170	177,989	168,322	262,710	77,494	38,699	33,029	31,745	57,423	50,751	45,247	926,190	43,311	21,629	82,567	71,586	69,990	337,103	22,252	181,634	482,169

（２表）　火災の状況

区　　分		単位	令和５年 A	令和４年 B	増　減　数 （ A－B ） C	増 減 率 (C/B×100) %
出　火　件　数		件	9	17	△8	△47
	建　　物		6	8	△2	△25
	林　　野			3	△3	△100
	車　　両			4	△4	△100
	船　　舶					
	航　空　機					
	そ　の　他		3	2	1	50
焼　損　棟　数		棟	6	16	△10	△63
	全　　焼		1	7	△6	△86
	半　　焼		1	1		0
	部　分　焼		3	5	△2	△40
	ぼ　　や		1	3	△2	△67
爆 発 焼 損 棟 数		棟				
建 物 焼 損 床 面 積		㎡	3,981	721	3,260	452
建 物 焼 損 表 面 積				38	△38	△100
林 野 焼 損 面 積		a		2,350	△2,350	△100
死傷者	死　　者	人				
	負　傷　者		1	2	△1	△50
	３０日死者					
り　災　世　帯　数		世帯	5	7	△2	△29
	全　　損		1	3	△2	△67
	半　　損		1	1		0
	小　　損		3	3		0
り　災　人　員		人	10	15	△5	△33
損　害　額　合　計		千円	482,169	181,634	300,535	165
	建　　物		479,380	22,700	456,680	
	林　　野			118,425	△118,425	△100
	自動車車両			7,413	△7,413	△100
	鉄 道 車 両					
	船　　舶					
	航　空　機					
	そ　の　他		2,789	33,096	△30,877	△93
	爆　　発					
出　　火　　率		件/万人	1.09	2.04	△1	△46

（注）　１　出火率とは、人口１万人当たりの出火件数をいう。
　　２　△は負数を表す。

（３表）　火災種別ごと月別の火災状況

種別＼月別			計	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
出火件数			9	1	1	1		1			2	1	1		1
損害額			482,169	3,212	924	573		1,608			219	472,116	947		2,570
建物火災用途別	住宅	件	1					1							
		千円	1,608					1,608							
	併用住宅	件													
		千円													
	飲食店	件													
		千円													
	店舗	件													
		千円													
	共同住宅	件	2	1		1									
		千円	3,785	3,212		573									
	工場作業場	件	2		1							1			
		千円	473,040		924							472,116			
	倉庫	件													
		千円													
	その他	件	1										1		
		千円	947										947		
林野火災		件													
		千円													
車両火災		件													
		千円													
船舶火災		件													
		千円													
航空機火災		件													
		千円													
その他の火災		件	3								2				1
		千円	2,789								219				2,570

（４表）　地域別・月別の出火状況

月別／地域別	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	計
伊予三島	1	1	1		1					1		1	6
川 之 江								1					1
土　　居								1	1				2
新　　宮													
計	1	1	1		1			2	1	1		1	9

（５表）　地域別の火災種別・件数及び損害額

区分／地域別	計		建物火災		林野火災		車両火災		船舶火災		その他の火災	
	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）
伊予三島	6	9,834	5	7,264							1	2,570
川 之 江	1	194									1	194
土　　居	2	472,141	1	472,116							1	25
新　　宮												
計	9	482,169	6	479,380							3	2,789

（６表）　時間帯別　・月別の出火状況

時間帯別＼月別	計	１　月	２　月	３　月	４　月	５　月	６　月	７　月	８　月	９　月	10　月	11　月	12　月
計	9	1	1	1		1			2	1	1		1
0　～　1	1		1										
1　～　2													
2　～　3													
3　～　4	1										1		
4　～　5													
5　～　6													
6　～　7													
7　～　8													
8　～　9													
9　～　10													
10　～　11	1								1				
11　～　12	1	1											
12　～　13													
13　～　14													
14　～　15	3			1		1			1				
15　～　16	1												1
16　～　17													
17　～　18													
18　～　19													
19　～　20	1									1			
20　～　21													
21　～　22													
22　～　23													
23　～　24													
不　　明													

（７表）　ア　地域別火災の状況

区分／地域別	出火件数						死傷者			焼損面積・台数			焼損棟数					損害額（収容物を含む）単位：千円
	計	建物火災	林野火災	車両火災	船舶火災	その他の火災	死者	負傷者	30日死者	建物（㎡）	林野（a）	台数等	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	
伊予三島	6	5				1		1		647			1		3	1	5	9,834
川之江	1					1												194
土居	2	1				1				3,334				1			1	472,141
新宮																		
計	9	6				3		1		3,981			1	1	3	1	6	482,169

（７表）　イ　地域別火災の状況

区分／地域別			伊予三島	川之江	土居	新宮	計
人口		人	33,956	32,643	14,806	797	82,202
世帯数		世帯	16,301	15,126	6,911	447	38,785
年間出火件数		件	6	1	2		9
年間損害額		千円	9,834	194	472,141		482,169
り災世帯数		世帯	5				5
り災人員		人	10				10
建物焼損床面積		㎡	647		3,334		3,981
山林焼損面積		a					
住民１人当たりの損害額		円	290	6	31,888		5,866
１日当たりの損害額		千円	27	1	1,294		1,321
１世帯当たりの損害額		円	603	13	68,317		12,432
出火率（人口１万人当たり）		件	1.77	0.31	1.35		1.09
火災１件当たりの損害額		千円	1,639	194	236,071		53,574
死者		人					
負傷者		人	1				1
	３０日死者						

（８表）　ア　月別・損害額別の火災状況

（単位:円）

損害額 / 月別	１千未満	1千以上 ５千未満	５千以上 １万未満	１万以上 ５万未満	５万以上 10万 未満	10万以上 100万 未満	100万 以上 500万 未満	500万 以上 1,000万 未満	1,000万 以上	計
１　月							1			1
２　月						1				1
３　月						1				1
４　月										
５　月							1			1
６　月										
７　月										
８　月				1		1				2
９　月									1	1
10　月						1				1
11　月										
12　月							1			1
計				1		4	3		1	9

（８表）　イ　地域別・損害額別の火災状況

（単位:円）

損害額 / 地 域	１千未満	1千以上 ５千未満	５千以上 １万未満	１万以上 ５万未満	５万以上 10万 未満	10万以上 100万 未満	100万 以上 500万 未満	500万 以上 1,000万 未満	1,000万 以上	計
伊予三島						3	3			6
川 之 江						1				1
土　　居				1					1	2
新　　宮										
計				1		4	3		1	9

（９表）　出火原因別 ・火災種別別の火災件数(爆発火災を除く)

火災種別 / 原因別	年間出火件数	建物火災	林野火災	車両火災	船舶火災	航空機火災	その他の火災
合計	9	6					3
たばこ	2	2					
こんろ							
かまど							
風呂かまど							
炉							
焼却炉							
ストーブ							
こたつ							
ボイラー							
煙突・煙道							
排気管							
電気機器							
電気装置							
電灯･電話等配線							
内燃機関							
配線器具							
火遊び							
マッチ･ライター							
たき火							
溶接機・溶断機	2	1					1
灯火							
衝突の火花							
取灰							
火入れ							
放火	1	1					
放火の疑い	1						
その他	1						1
不明・調査中	3	2					1

（10表）　ア　月別・覚知方法別の出火状況

月別＼覚知方法別	１１９（火災報知専用電話）			加入電話		警察電話	駆け付け	事後聞知	その他	計
	ＩＰ	固定	携帯	固定	携帯					
1　月			1							1
2　月			1							1
3　月						1				1
4　月										
5　月		1								1
6　月										
7　月										
8　月		1	1							2
9　月			1							1
10　月	1									1
11　月										
12　月			1							1
計	1	2	5			1				9

（10表）イ　地域別・覚知方法別の出火状況

地域別＼覚知方法別	１１９（火災報知専用電話）			加入電話		警察電話	駆け付け	事後聞知	その他	計
	ＩＰ	固定	携帯	固定	携帯					
伊予三島	1	1	3			1				6
川之江		1								1
土居			2							2
新宮										
計	1	2	5			1				9

（11表）　ア　月別・曜日別の出火状況

曜日別 / 月別	日	月	火	水	木	金	土	計
1　月							1	1
2　月		1						1
3　月					1			1
4　月								
5　月					1			1
6　月								
7　月								
8　月			1	1				2
9　月			1					1
10　月						1		1
11　月								
12　月				1				1
計		1	2	2	2	1	1	9

（11表）　イ　地域別・曜日別の出火状況

曜日別 / 地域別	日	月	火	水	木	金	土	計
伊予三島		1		1	2	1	1	6
川之江				1				1
土居			2					2
新宮								
計		1	2	2	2	1	1	9

救　急

１　活動状況

２　救急統計

救急業務の概況

令和５年中における救急業務の概況は、救急出動件数 4,410 件、搬送人員 4,087 人で、前年と比較すると出動件数 172 件（3.9%）、搬送人員は 128 人（3.1%）の増加となっている。

このことは、管内で１日平均 12.1 件（前年 11.6 件）の割合で救急隊が出動しており、住民 20.1 人（前年 21.1 人）に１人が救急車で搬送されたことになる。また、愛媛県ドクターヘリの要請状況にあっては、出動要請 33 件を行い、内 29 件が出動している。

また、昭和 55 年（この年、現四国中央市と新居浜市別子山を合わせた区域が管轄となる。なお、平成 15 年 4 月に別子山村と新居浜市が合併し、別子山における消防事務の一部を新居浜市から受託、引き続き救急業務を実施する。）を 100 とした場合、令和５年は救急出動件数指数が 254.2、搬送人員指数は 235.6 となり、前年より出動件数指数が 9.9 ポイント増加している。

（１・３・17 表　参照）

１　活動状況

（１）事故種別救急出動件数及び搬送人員の状況

救急出動件数及び搬送人員を事故種別ごとにみると、出動件数は急病が最も多く、次いで一般負傷、転院搬送、交通事故の順となっており、搬送人員においても、急病、一般負傷、転院搬送、交通事故の順となっている。

これらの出動件数の内訳をみると、急病 2,861 件（全体の 64.9%）、一般負傷 632 件（同 14.3%）、転院搬送 464 件、（同 10.5%）、交通事故 262 件（同 6.0%）、その他（火災、自然災害、水難事故、労働災害、運動競技、加害、自損行為、その他医師搬送、その他のその他）191 件（同 4.3%）、となり、前年と比較すると急病は 123 件、一般負傷が３件、転院搬送が 61 件増加し、交通事故は９件減少している。

また、月別に出動件数をみると、最も多い月は１月の 414 件（全体の 9.4%）、次いで８月の 413 件（同 9.4%）となり、最も少ない月は３月の 317 件（同 7.2%）、次いで２月の 327 件（同 7.4%）となっている。

（２・３表　参照）

（２）傷病程度別・事故種別搬送人員の状況

傷病程度別搬送人員をみると、死亡 84 人（全体の 2.0%）、重症 922 人（同 22.6%）、中等症 1,435 人（同 35.1%）、軽症及び医師の診断がないもの 1,646 人（同 40.3%）となり、死亡を含めて入院加療を要すると診断された重症・中等症の傷病者は 2,441 人（同 59.7%）となっている。

（４表　参照）

（３）医療機関別搬送人員の状況

医療機関への搬送状況をみると、救急告示医療機関へ搬送された傷病者 4,018 人（全体の 98.3%）、その他の医療機関等へ搬送された傷病者 69 人（同 1.7%）となっている。

（５表　参照）

（４）医療機関手配回数別搬送人員の状況

１人の傷病者に対する、医療機関の手配回数をみると、

手配回数	１回	3,827 人（全体の93.6%）
〃	２回	218 人（　同　5.3%）
〃	３回	25 人（　同　0.6%）
〃	４回	11 人（　同　0.3%）
〃	５回以上	6 人（　同　0.2%）

となっている。

（６表　参照）

（５）性別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を性別にみると、

男　性	2,195 人（全体の53.7%）
女　性	1,892 人（　同　46.3%）

となり、男性の占める比率が高い。

また、年齢区分別にみると、

高齢者	2,865 人（全体の70.1%）
成　人	974 人（　同　23.8%）
少　年	113 人（　同　2.8%）
乳幼児	134 人（　同　3.2%）
新生児	1 人（　同　0.1%）

となり、高齢者の占める比率が高い。

（７表　参照）

（６）現場到着所要時間別出動件数の状況

救急出動件数を、現場到着所要時間別にみると、

３分未満	41 件（全体の 1.0%）
３分以上５分未満	194 件（　同　4.4%）
５分以上10分未満	2,748 件（　同　62.3%）
10分以上20分未満	1,278 件（　同　29.0%）
20分以上	149 件（　同　3.3%）

となり、出動件数 4,410 件の内、最も多いのが 5 分以上 10 分未満 2,748 件（全体の 62.3%）で、平均現場到着所要時間は 9.4 分となっている。

（８表　参照）

（７）収容所要時間別搬送人員の状況

搬送人員を、収容所要時間別にみると、

10分未満	0 人（全体の 0.0%）
10分以上20分未満	84 人（　同　2.1%）
20分以上30分未満	1,203 人（　同　29.4%）
30分以上60分未満	2,550 人（　同　62.4%）
60分以上120分未満	245 人（　同　6.0%）
120分以上	5 人（　同　0.1%）

となり、搬送人員 4,087 人の内、最も多いのが 30 分以上 60 分未満 2,550 人（全体の 62.4%）で、平均収容所要時間は 37.5 分となっている。

（９表　参照）

（８）救急隊員の行った応急処置件数の状況

搬送人員 4,087 人の内、救急隊員が応急処置を行った傷病者は 4,085 人（全体の 99.9%）で、その内容は、血中酸素飽和度測定 3,983 件と最も多く、次いで血圧測定 3,898 件、心電図測定 2,479 件の順となり、延べ 17,105 件の応急処置を実施している。

（10 表　参照）

（９）時間帯別・事故種別出動件数の状況

救急出動件数を時間帯別にみると、

昼間（８時から18時まで）	2,624 件（全体の59.5%）
夜間（18時から８時まで）	1,786 件（　同　40.5%）

となり、昼間の時間帯の出動件数が多い。

（11 表　参照）

(10) 曜日別救急出動件数の状況

曜日別救急出動件数をみると、最も多いのが金曜日の 675 件（全体の 15.3%)、次いで木曜日の 665 件（同 15.0%)、日曜日の 650 件（同 14.7%）の順となり、最も少ないのが水曜日の 585 件（同 13.3%）となっている。

(12 表　参照)

(11) 地域別救急出動件数の状況

救急出動件数を地域別にみると、

伊予三島	1,793 件（全体の40.7%）
川 之 江	1,762 件（　同　40.0%）
土　　居	760 件（　同　17.2%）
新　　宮	74 件（　同　1.7%）
別 子 山（受託）	15 件（　同　0.3%）
管 轄 外	6 件（　同　0.1%）

地域別救急出動件数は、前年と比較すると伊予三島地域は 29 件、川之江地域は 161 件、土居地域は 22 件増加しており、新宮地域は 26 件、別子山（受託）地域は 8 件、高速自動車道を含む管轄外は 6 件減少している。

(13 表　参照)

(12) 所属別・事故種別出動件数の状況

救急出動件数を所属別にみると、

本　　署	2,421 件（全体の54.9%）
東 分 署	1,077 件（　同　24.5%）
西 分 署	781 件（　同　17.7%）
新宮分遣所	81 件（　同　1.8%）
嶺南分遣所	50 件（　同　1.1%）

となっている。

(14 表　参照)

(13) 高速自動車道における救急業務の状況

高速自動車道における救急業務の概況は、救急出動件数 31 件、搬送人員 24 人であり、救急出動件数は前年度と比べ５件の増加となっており、搬送人員にあっては５人減少している。

出動件数を事故種別ごとにみると、交通事故 16 件(全体の 51.6%)、急病８件(同 25.8%)、一般負傷が１件（同 3.2%)、その他６件（同 19.4%）となっている。また、搬送人員では交通事故 12 人（全体の 50.0%）急病６人（同 25.0%)、一般負傷１人(同 4.2%）その他５人（同 20.8%)、となっている。

救急出動件数を路線別にみると、松山自動車道 18 件、高松自動車道５件、高知自動車道８件、徳島自動車道は０件となっている。

(15 表　参照)

(14) 応急手当普及啓発活動の状況

応急手当普及啓発活動の状況は、普通救命講習Ⅰが 34 回で受講者数 540 人、普通救命講習Ⅲが７回で受講者数 79 人、一般救急講習が 124 回で受講者数 2,665 人となり、全体で 3,284 人が受講している。

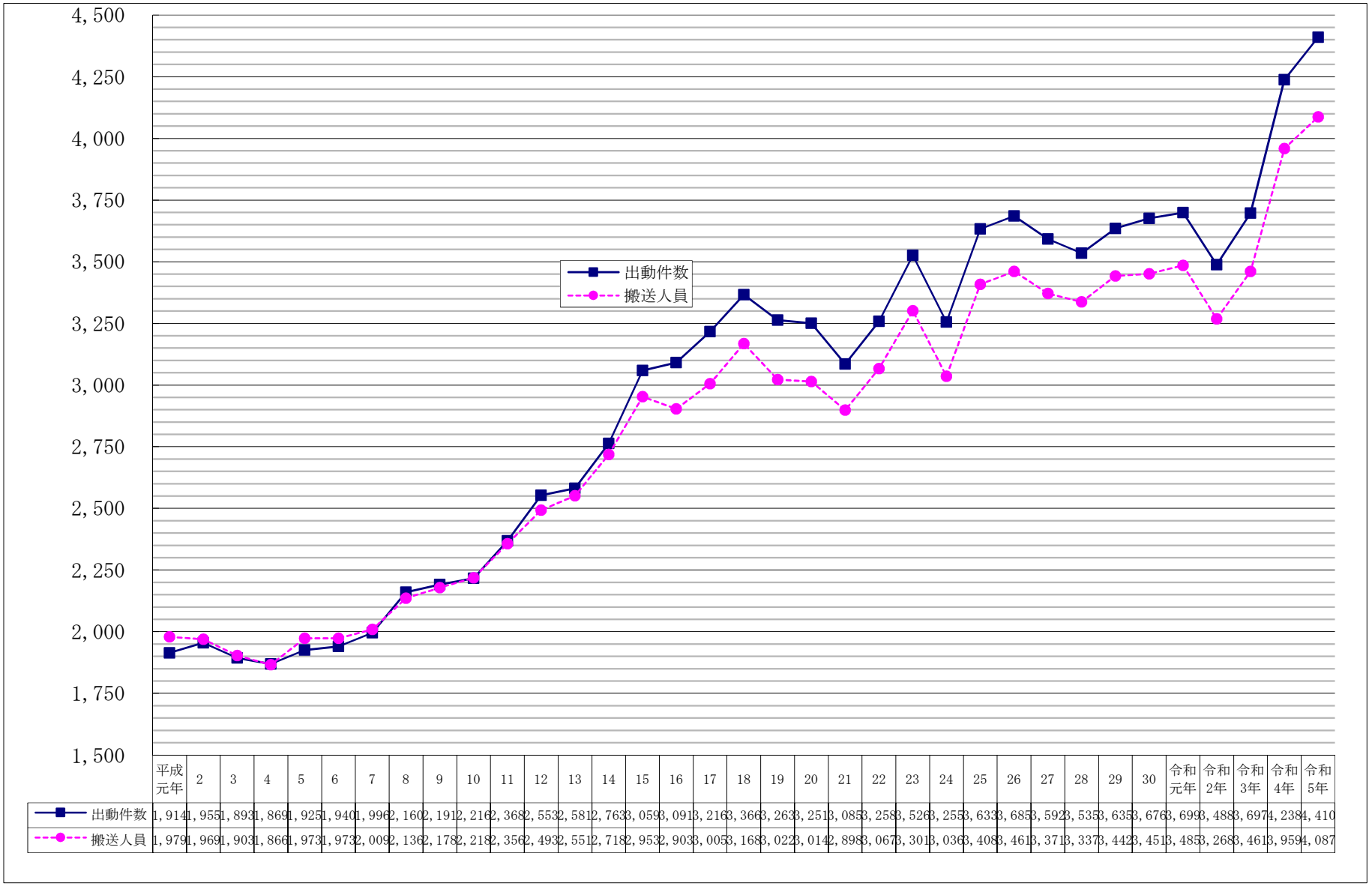
(16 表　参照)

(15) ドクターヘリ運航状況

ドクターヘリ要請状況は、出動要請件数 33 件の内、愛媛ドクターヘリの管理下におかれ医療処置が行われた件数が 26 件、出動後キャンセルが３件で、天候不良及び重複要請による未出動件数が４件となっている。

(17 表　参照)

（１表）　救急出動件数及び搬送人員の推移



	平成元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
出動件数	1,914	1,955	1,893	1,869	1,925	1,940	1,996	2,160	2,191	2,216	2,368	2,553	2,581	2,763	3,059	3,091	3,216	3,366	3,263	3,251	3,085	3,258	3,526	3,255	3,633	3,685	3,592	3,535	3,635	3,676	3,699	3,488	3,697	4,238	4,410
搬送人員	1,979	1,969	1,903	1,866	1,973	1,973	2,009	2,136	2,178	2,218	2,356	2,493	2,551	2,718	2,953	2,903	3,005	3,168	3,022	3,014	2,898	3,067	3,301	3,036	3,408	3,461	3,371	3,337	3,442	3,451	3,485	3,268	3,461	3,959	4,087

（２表）　月別・事故種別・救急出動件数及び搬送人員

区分／月	出動件数	搬送人員	火災		自然		水難		交通		労災		運動		一般		加害		自損		急病		その他						不搬送件数
																							転院		医師	資器材	その他		
			出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	出動件数	出動件数	搬送人員	
1	414	382	1	1					19	18	7	7	2	1	61	55	1	1	2	2	276	254	43	43	2				32
2	327	304							26	22	6	6	1	1	47	45			3	2	199	185	43	43	1		1		24
3	317	291							20	19	3	3	6	6	50	46	1	1	2	2	198	180	34	34			3		28
4	402	368							14	13	8	8	2	2	54	52			4	3	286	257	34	33					37
5	330	311							23	20	3	3	1	1	43	40	1	1	4	4	216	207	35	35			4		20
6	333	307							21	21	9	9	2	2	41	38	3	2	3	3	207	187	45	45			2		28
7	389	364							19	19	14	13	6	6	59	57	2	1	1	1	243	223	44	44			1		26
8	413	390							31	32	14	14	2	2	47	45	4	4	6	4	267	251	38	38			4		28
9	366	334							22	21	6	6	1	1	48	44	1	1	4	1	239	216	44	44			1		35
10	379	351							25	24	5	5	6	7	60	58			2	2	244	219	36	36			1		31
11	338	312					1	1	16	16	3	3	1	1	52	48	2	2	4	2	234	214	24	24			1	1	27
12	402	373							26	19	2	2	4	3	70	69	1	2	1	1	252	233	44	44			2		31
合計	4,410	4,087	1	1			1	1	262	244	80	79	34	33	632	597	16	15	36	27	2,861	2,626	464	463	3		20	1	347

（３表）　事故種別救急出動件数及び搬送人員の状況

事故種別		区分	令和５年	構成比（%）	令和４年	構成比（%）	対前年比 増減数	対前年比 増減率（%）
火災		出動件数	1	0.02	3	0.07	△ 2	△ 66.7
		搬送人員	1	0.02	3	0.08	△ 2	△ 66.7
自然災害		出動件数		0.00	2	0.05	△ 2	△ 100.0
		搬送人員		0.00	1	0.03	△ 1	△ 100.0
水難事故		出動件数	1	0.02	3	0.07	△ 2	△ 66.7
		搬送人員	1	0.02	1	0.03	0	0.0
交通事故		出動件数	262	5.94	271	6.39	△ 9	△ 3.3
		搬送人員	244	5.97	270	6.82	△ 26	△ 9.6
労働災害		出動件数	80	1.81	80	1.89	0	0.0
		搬送人員	79	1.93	78	1.97	1	1.3
運動競技		出動件数	34	0.77	17	0.40	17	100.0
		搬送人員	33	0.81	17	0.43	16	94.1
一般負傷		出動件数	632	14.33	629	14.84	3	0.5
		搬送人員	597	14.61	596	15.04	1	0.2
加害		出動件数	16	0.36	12	0.28	4	33.3
		搬送人員	15	0.37	9	0.23	6	66.7
自損行為		出動件数	36	0.82	44	1.04	△ 8	△ 18.2
		搬送人員	27	0.66	28	0.71	△ 1	△ 3.6
急病		出動件数	2,861	64.88	2,738	64.61	123	4.5
		搬送人員	2,626	64.25	2,554	64.50	72	2.8
その他	転院	出動件数	464	10.52	403	9.51	61	15.1
		搬送人員	463	11.33	401	10.13	62	15.5
	医師	出動件数	3	0.07	4	0.09	△ 1	△ 25.0
	資器材	出動件数	0	0.00	0	0.00	0	0.0
	その他	出動件数	20	0.45	32	0.76	△ 12	△ 37.5
		搬送人員	1	0.02	1	0.03	0	100.0
合計		出動件数	4,410	100.00	4,238	100.00	172	3.9
		搬送人員	4,087	100.00	3,959	100.00	128	3.1

（注）　△は負数を表す。

（４表）　傷病程度別・事故種別搬送人員

事故種別／程度	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般負傷	加害	自損	急病	その他		合計
											転院	その他	
死　　亡				3	1		7		8	62	3		84
重　　症				26	16	2	160		5	528	185		922
中 等 症	1		1	54	16	9	167	4	3	937	242	1	1,435
軽　　症				161	46	22	263	11	11	1,099	33		1,646
そ の 他													
合　　計	1		1	244	79	33	597	15	27	2,626	463	1	4,087

（注）傷病程度は、収容機関の初診における医師の診断により次のとおり分類した。
死亡とは、死亡が確認されたもの。
重症とは、3週間以上の入院加療を必要とするもの。
中等症とは、入院加療を要するもので重症にいたらないもの。
軽症とは、入院加療を必要としないもの。
その他とは、医師の診断がないもの及び医療機関以外の場所へ搬送したもの。

（５表）　医療機関別搬送人員

開設主体別／告示別	医療機関						その他	合計
	国立	公立	公的	私的		小計		
				病院	診療所			
救急告示	39	347	39	3,593		4,018		計
非告示	3	1		31	34	69		
合　　計	42	348	39	3,624	34	4,087		4,087

（６表）　事故種別・医療機関手配回数別搬送人員

回数／種別	1	2	3	4	5～10	11以上	合　計
急　　病	2,434	163	15	9	5		2,626
交　　通	229	12	3				244
一般負傷	563	28	4	1	1		597
そ の 他	601	15	3	1			620
合　　計	3,827	218	25	11	6		4,087

（７表）　月別・性別・年齢区分別搬送人員

年齢区分		新生児		乳幼児		少　年		成　人		高　齢　者		性別小計		合　計
性別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
月別	1月			7	3	6	5	41	24	147	149	201	181	382
	2月			4	4	4	1	40	29	105	117	153	151	304
	3月			3	1	7	7	44	23	111	95	165	126	291
	4月		1	7	6	4	2	64	38	132	114	207	161	368
	5月			14	5	3	2	43	34	95	115	155	156	311
	6月			9	4	5	1	46	22	113	107	173	134	307
	7月			7	5	6	7	61	42	112	124	186	178	364
	8月			8	6	6	9	62	40	137	122	213	177	390
	9月			6	5	10	2	58	31	118	104	192	142	334
	10月			9	6	4	2	47	32	136	115	196	155	351
	11月			5	2	8	2	44	23	95	133	152	160	312
	12月			6	2	8	2	48	38	140	129	202	171	373
合　計			1	85	49	71	42	598	376	1,441	1,424	2,195	1,892	4,087

（注）新生児　　生後28日未満
乳幼児　　生後28日以上７歳未満
少　年　　７歳以上18歳未満
成　人　　18歳以上65歳未満
高齢者　　65歳以上

（８表）　事故種別・現場到着所要時間別出動件数

種別＼時間	３分未満	３分以上５分未満	５分以上10分未満	10分以上20分未満	20分以上	合　計	現着最短時間	現着最長時間	現着平均時間
急　病	15	99	1,746	903	98	2,861		45	9.6
交　通	1	10	155	77	19	262	2	29	10.3
一般負傷	5	35	401	175	16	632	1	45	9.2
その他	20	50	446	123	16	655		52	8.4
合　計	41	194	2,748	1,278	149	4,410			9.4

（注）救急出動要請から救急隊員が現場に到着するまでの所要時間をいう。
（注）不搬送の救急出動で途中引揚となった場合は、その時刻を現着時刻とした。

（９表）　事故種別・収容所要時間別搬送人員

種別＼時間	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	合　計	収容最短時間	収容最長時間	収容平均時間
急　病		33	783	1,682	124	4	2,626	12	213	36.9
交　通		2	61	152	29		244	18	117	40.3
一般負傷		12	184	371	30		597	10	106	36.2
その他		37	175	345	62	1	620	15	124	39.9
合　計		84	1,203	2,550	245	5	4,087			37.5

（10表）　救急隊員の行った応急処置項目別・事故種別件数

区分＼事故種別		急　病	交通事故	一般負傷	その他	合　計
応急処置対象人員		2,625	244	597	619	4,085
応急処置項目	止血	3	25	99	22	149
	固定	29	129	143	57	358
	人工呼吸	14		2	2	18
	心臓マッサージ				1	1
	心肺蘇生	88	3	12	10	113
	酸素吸入	552	18	33	189	792
	気道確保	128	3	13	13	157
	経鼻エアウェイ	2			1	3
	喉頭鏡・鉗子の使用			3		3
	コンビチューブ等	17		2		19
	気管挿管	12		5		17
	保温	71	2	6	14	93
	被覆保護	10	51	152	38	251
	在宅療法継続	139	1	11	11	162
	除細動	11				11
	静脈路確保	62	2	8	4	76
	薬剤投与	46		6	4	56
	血圧測定	2,483	238	571	606	3,898
	心音・呼吸音等の聴取	414	44	57	42	557
	血中酸素飽和度の測定	2,548	241	587	607	3,983
	心電図測定	1,825	78	239	337	2,479
	その他の処置	2,536	235	579	601	3,951
合　計		10,990	1,070	2,528	2,559	17,105

（注１）１人の救急患者に２項目以上の処置を行った場合は、それぞれの項目について処置件数を計上した。

（注２）応急処置項目の内、気道確保欄の経鼻エアウェイ、喉頭鏡・鉗子の使用、コンビチューブ等、気管挿管は内数を計上した。

（11表）　時間帯別・事故種別出動件数

種別／時間帯	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般負傷	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
０～２				9	1		16	4	3	141	6			1	181
２～４					3		16	3	1	105	2				130
４～６				1			14	1	2	126	2				146
６～８				21	2		46		5	239	4				317
８～10				34	17		73	1	1	392	50	2		5	575
10～12	1			50	17	11	77	1	3	313	101			1	575
12～14				34	8	9	68	1	4	298	99			1	522
14～16				32	18	7	68		4	253	80	1		4	467
16～18				37	8	3	76		4	299	52			6	485
18～20				18	3	1	80	1	5	266	32			1	407
20～22			1	13	2	3	64	3	2	252	23			1	364
22～24				13	1		34	1	2	177	13				241
合　計	1		1	262	80	34	632	16	36	2,861	464	3		20	4,410

（12表）　曜日別・事故種別出動件数

種別／曜日	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般負傷	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
日				32	5	12	126	7	2	429	35			2	650
月				41	9	5	76	4	3	395	59	1		1	594
火				33	15	1	88		4	404	76	1		3	625
水			1	38	7	2	89	1	9	359	75			4	585
木				36	19	5	88	2	13	425	71	1		5	665
金				46	17	3	81	1	2	428	94			3	675
土	1			36	8	6	84	1	3	421	54			2	616
合　計	1		1	262	80	34	632	16	36	2,861	464	3		20	4,410

（13表）地域別・事故種別出動件数

種別／地域	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
伊予三島	1		1	87	44	22	268	8	10	1,213	139	1,793
川之江				110	24	5	251	7	17	1,044	304	1,762
土居				56	11	6	99	1	6	540	41	760
新宮				6		1	11		3	52	1	74
別子山（受託）							3			10	2	15
管外				3	1					2		6
合計	1		1	262	80	34	632	16	36	2,861	487	4,410

（14表）所属別・事故種別出動件数

種別／所属	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
本署			1	146	42	15	347	9	20	1,568	273	2,421
東分署				46	26	6	166	7	7	654	165	1,077
西分署	1			57	9	6	98		6	562	42	781
新宮分遣所				10	3	1	11		3	51	2	81
嶺南分遣所				3		6	10			26	5	50
合計	1		1	262	80	34	632	16	36	2,861	487	4,410

（注１）平成27年3月17日より現場直近車両が出動する体制となる。

（15表）　高速自動車道の路線別・事故種別出動件数及び搬送人員

種別／路線	交通事故		急病		一般負傷		その他		合計	
	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員
松山自動車道	8	6	6	4	1	1	3	3	18	14
高松自動車道	2	1	1	1			2	1	5	3
高知自動車道	6	5	1	1			1	1	8	7
徳島自動車道										
合計	16	12	8	6	1	1	6	5	31	24

（16表）　応急手当普及啓発活動の状況

講習区分／主催団体	普通救命講習Ⅲ		普通救命講習Ⅱ		普通救命講習Ⅰ		一般救急講習		合計	
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
事業所					6	112	14	181	20	293
学校・幼稚園保育所（園）					5	35	61	1,429	66	1,464
ＰＴＡ・愛護班等							18	486	18	486
消防団							1	48	1	48
自主防災組織					2	13	3	90	5	103
福祉施設等							14	179	14	179
上記以外の官公所					6	137	6	124	12	261
その他	7	79			15	243	7	128	29	450
合計	7	79			34	540	124	2,665	165	3,284

（注）普通救命講習Ⅱは４時間、普通救命講習Ⅰ、Ⅲは３時間、一般救急講習は３時間未満の講習。

（17表）ドクターヘリ要請状況

	要請件数	出動件数	出動件数内訳				未出動件数	未出動件数内訳				
			現場救急	施設間搬送	出動後キャンセル	その他		待機時間外	天候不良	重複要請	出動前キャンセル	その他
1月	2	2	1	1								
2月	4	4	1	3								
3月	3	3	1	2								
4月	2	1	1				1		1			
5月	2	1	1				1		1			
6月	5	5	1	4			0					
7月	3	2		1	1		1		1			
8月	1	1	1									
9月	3	3		3								
10月	1	1			1							
11月	4	3		2	1		1			1		
12月	3	3		3								
合計	33	29	7	19	3		4		3	1		

救　　助

１　活動状況

２　救助統計

救 助 業 務 の 概 況

令和５年中における救助業務の概況は、出動件数が 40 件、救助人員が 33 人で前年と比較すると出動件数は２件の増加、救助人員は６人の増加となっている。

（１表　参照）

１　活 動 状 況

（１） 事故種別出動件数・活動件数

事故種別出動件数は、交通事故が最も多く 21 件（全体の 52.5%）、次いで、その他の事故が 13 件（同 32.5%）、建物等による事故が４件（同 10.0%）、機械による事故が２件（同 5.0%）となっている。

活動件数は 26 件で、交通事故が最も多く 11 件（全体の 42.3%）、次いで、その他の事故が 10 件（同 38.5%）、建物等による事故が３件（同 11.5%）、機械による事故が２件（同 7.7%）となっている。

（２表　参照）

（２） 事故種別発生場所別出動件数

事故種別発生場所別出動件数は、屋外が 37 件（全体の 92.5%）、屋内が３件（同 7.5%）となっている。

屋外での事故の内訳をみると、その他（事業所敷地や畑など）が 15 件、次いで、一般道路が 14 件、山岳が５件、高速道路が２件、河川での内水面が１件となっている。

屋内では住居が３件となっている。

（３表　参照）

（３） 救助人員

救助人員は 33 人で、その内訳をみると、交通事故が最も多く 14 人（全体の 42.4%）、次いで、その他の事故が 11 人（同 33.3%）、建物等による事故が６人（同 18.2%）、機械による事故が２人（同 6.1%）となっている。

（４表　参照）

（４） 事故種別出動隊員・活動隊員

出動隊員は延べ 404 人で、その内訳をみると、救助隊員（専任・兼任）152 人、消防隊員 114 人、救急隊員 138 人となっている。

活動隊員は延べ 221 人（出動隊員のうち 54.7%）で、救助隊員（専任・兼任）74 人、消防隊員 66 人、救急隊員 81 人となっている。

（５表　参照）

（５） 事故種別車両区分別出動台数

出動車両台数は延べ 138 台で、その内訳をみると、救助工作車 34 台、ポンプ車（ＣＡＦＳ含）18 台、タンク車（ＣＡＦＳ含）20 台、救急車 46 台、その他の消防車両 20 台となっている。

事故種別出動車両台数では、交通事故 76 台（全体の 55.1％）、次いで、その他の事故 43 台（同 31.1％）、建物等による事故 12 台（同 8.7％）、機械による事故７台（同 5.1％）となっている。

（６表　参照）

（６） 地域別・事故種別出動件数

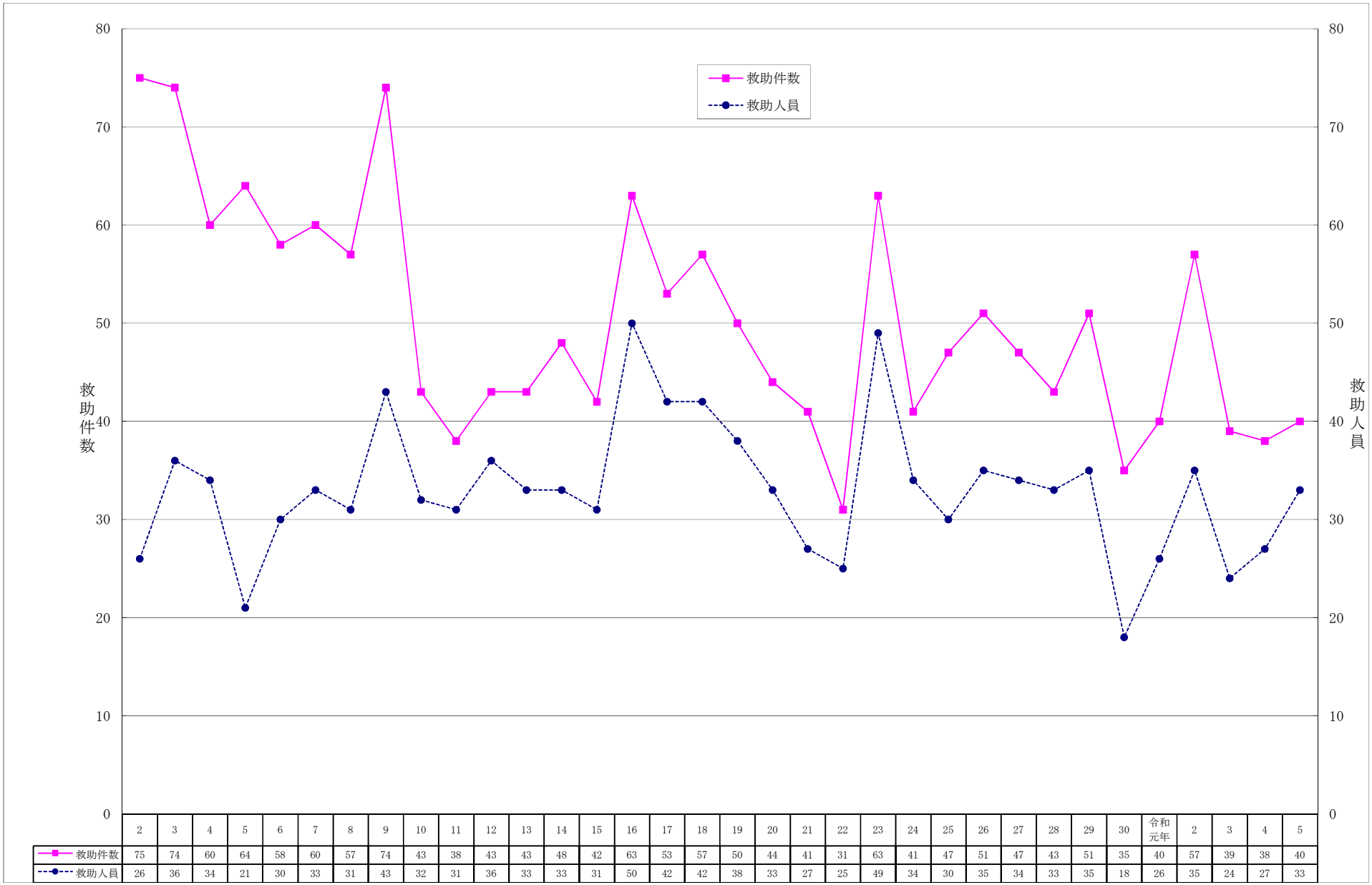
出動件数は 40 件で、その内訳をみると、伊予三島地域が最も多く 15 件（全体の 37.5％）、次いで、川之江地域 14 件（同 35.0％）、土居地域７件（同 17.5％）、別子山（受託）地域３件（同 7.5％）、新宮地域１件（同 2.5％）となっている。

地域別・事故種別出動件数でみると、受託の別子山地区を除く各地域では交通事故が最も多く発生している。伊予三島地域では、交通事故６件に次いで、建物等による事故及びその他の事故各４件、機械による事故１件となっている。川之江地域では、交通事故９件に次いで、その他の事故４件、機械による事故１件となっている。土居地域では、交通事故５件に次いでその他の事故２件となっている。また、別子山でその他の事故１件、新宮地域で交通事故１件が発生している。

（７表　参照）

2 救助統計

（1表）救助の推移



	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	2	3	4	5
救助件数	75	74	60	64	58	60	57	74	43	38	43	43	48	42	63	53	57	50	44	41	31	63	41	47	51	47	43	51	35	40	57	39	38	40
救助人員	26	36	34	21	30	33	31	43	32	31	36	33	33	31	50	42	42	38	33	27	25	49	34	30	35	34	33	35	18	26	35	24	27	33

（2表） 事故種別出動件数・活動件数・救助人員

区分＼事故種別	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
	建物	他									
出動件数			21			2	4			13	40
活動件数			11			2	3			10	26
救助人員			14			2	6			11	33

(注)火災における出動件数は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を行った場合のみ救助出動件数として計上する。

（3表） 事故種別発生場所別出動件数

区分＼事故種別		火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
		建物	他									
屋内	住居							3				3
	住居外											
屋外	道路 高速			1							1	2
	道路 その他			14								14
	水面 内水面										1	1
	水面 外水面											
	山岳										5	5
	その他			6			2	1			6	15
地下												
その他												
合計				21			2	4			13	40

※本表において、火災とは救助活動を行った火災をいうものである。

（4表）事故種別発生場所別救助人員

区分＼事故種別		火災 建物	火災 他	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他事故	合計
屋内	住居							5				5
屋内	住居外											
屋外	道路 高速										1	1
屋外	道路 その他			12								12
屋外	水面 内水面										1	1
屋外	水面 外水面											
屋外	山岳										3	3
屋外	その他			2			2	1			6	11
地下												
その他												
合計				14			2	6			11	33

（5表）事故種別出動人員・活動人員

隊員区分＼事故種別		火災 建物	火災 他	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
出動隊員	救助隊 専任			63			6	12			40	121
出動隊員	救助隊 兼任			15				3			13	31
出動隊員	消防隊員			63			8	12			31	114
出動隊員	救急隊員			81			6	12			39	138
出動隊員	合計			222			20	39			123	404
活動隊員	救助隊 専任			21			6	9			22	58
活動隊員	救助隊 兼任			9							7	16
活動隊員	消防隊員			23			8	8			27	66
活動隊員	救急隊員			39			6	9			27	81
活動隊員	合計			92			20	26			83	221

（6表）事故種別車両区分別出動台数

事故種別 / 車両区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
	建物	他									
救助工作車			21			2	4			7	34
ポンプ車（CAFS含）			9				1			8	18
タンク車（CAFS含）			12			2	3			3	20
はしご車											
化学車											
指揮車											
救急車			27			2	4			13	46
その他			7			1				12	20
合計			76			7	12			43	138

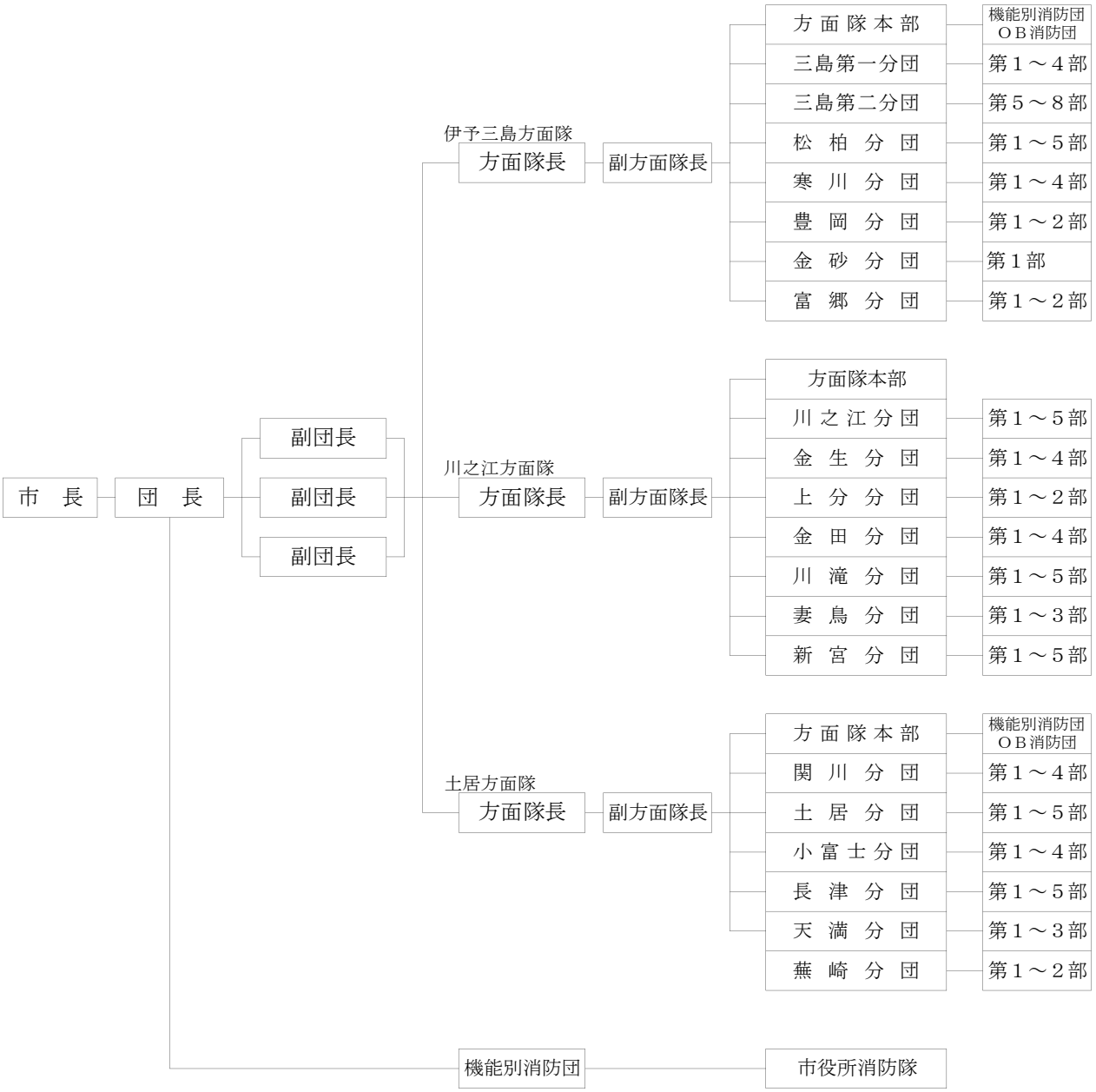
（7表）地域別・事故種別出動件数

事故種別 / 地域	火災	交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	合計
伊予三島		6			1	4			4	15
川之江		9			1				4	14
土居		5							2	7
新宮		1								1
別子山（受託）									3	3
管外										
合計		21			2	4			13	40

消　防　団　編

四国中央市消防団機構図

（令和6年4月1日現在）



歴代消防団長

（令和6年4月1日現在）

団名 歴代	四国中央市消防団	四国中央市連合消防団	伊予三島市消防団	川之江市消防団	土居町消防団	新宮村消防団
初代	宮崎彌三郎 平成20年4月1日 ～平成23年4月30日	宮崎彌三郎 平成18年4月1日 ～平成20年3月31日	合田太平次 昭和29年11月1日 ～昭和32年5月31日	谷菊之助 昭和29年11月1日 ～昭和32年4月30日	河上才三 昭和29年4月1日 ～昭和39年3月31日	田邊忠雄 昭和29年3月31日 ～昭和39年2月18日
２代	山川彰夫 平成23年5月1日 ～平成30年3月31日		菰田貞市 昭和32年6月1日 ～昭和42年10月31日	大西常市 昭和32年5月1日 ～昭和36年5月31日	鈴木清甫 昭和39年4月1日 ～昭和49年3月31日	横内充敦 昭和39年2月19日 ～昭和52年2月5日
３代	江口猛 平成30年4月1日 ～令和2年3月31日		藤井光夫 昭和42年11月1日 ～昭和46年6月6日	信藤治 昭和36年6月1日 ～昭和38年2月28日	村上武夫 昭和49年4月1日 ～昭和53年3月31日	真鍋稔 昭和52年2月6日 ～昭和54年1月16日
４代	曽我部光夫 令和2年4月1日 ～令和4年3月31日		宮崎彌三郎 昭和46年6月7日 ～平成20年3月31日	井川健 昭和38年3月24日 ～昭和54年9月9日	近藤昭三郎 昭和53年4月1日 ～昭和59年4月1日	脇久市 昭和54年1月17日 ～昭和60年3月31日
５代	久米幸一 令和4年4月1日 ～令和6年3月31日			西川保彦 昭和54年11月15日 ～平成10年2月7日	寺尾守 昭和59年4月2日 ～昭和63年4月1日	田邊達男 昭和60年4月1日 ～昭和63年3月31日
６代	村上豊司 令和6年4月1日 ～現在			合田晃 平成10年4月1日 ～平成17年3月31日	安部忠雄 昭和63年4月2日 ～平成4年4月1日	内田修 昭和63年4月1日 ～平成12年3月31日
７代				山川彰夫 平成17年4月1日 ～平成20年3月31日	齊藤暹 平成4年4月2日 ～平成8年4月1日	鈴木邦雄 平成12年4月1日 ～平成16年3月31日
８代					江口保夫 平成8年4月2日 ～平成12年4月1日	大西綾夫 平成16年4月1日 ～平成18年3月31日
９代					髙橋正俊 平成12年4月2日 ～平成16年3月31日	菅原和文 平成18年4月1日 ～平成20年3月31日
１０代					東野一雄 平成16年4月1日 ～平成20年3月31日	

消防団の人員装備

（令和6年4月1日現在）

区分 / 地区別	人員									装備			
			階級別										
	定員	実員	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ積載車	その他の車両	計
消防団本部	21	13	1	3			1	3	5			1	1
うち女性		9					1	3	5				
伊予三島方面隊	474	365		2	11	7	23	85	237	17	5	3	25
うち女性		1						1					
川之江方面隊	438	370		2	13	7	28	103	217	13	15	3	31
土居方面隊	374	317		2	10	7	24	97	177	6	18	3	27
機能別消防団　市役所消防隊	20	18							18		1		1
機能別消防団　ＯＢ消防団	40	35							35				
四国中央市消防団（計）	1,367	1,118	1	9	34	21	76	288	689	36	39	10	85
うち女性		10					1	4	5				